地道にサービスの狭間にあるケースを掘り起こすこと　現状では日常業務にふりまわされてできていない　管理職になると専門職という点よりも行政職（事務職）を求められることが多い　事務職としてもある程度わたりあえる技量は必要
地方への権限委譲がすすみ、府県機関が縮小されていく中、市町村の負担、責任がますます重くなっています。危機介入事例のあつかいも今後ますます増えていくでしょう。その時に適確な判断ができるよう広く深く知識を持つことが大切になってくると思います。それとも、保健師の活動分野が細分化され、配属された分野への専門知識を深めていくことになるのでしょうか…。よく分かりませんが…。
痴呆等困難対応事例への関与
仲間以外にも協力しようとする姿勢
町づくりと健康の視点を入れて行っていくことだと考えます。町の活性化や、住みよい町にと考えたとき、健康や福祉を視点に入れて行うことで、住民の意識が高まっていくと考えています
町の保健師として周りからもとめられるものは、1．命に関わるような危機介入事例への関与　2．医療部野の専門職としての知識（ついでに福祉も）などだと思うが、判断力、ゆとりの心（？）というか気長さ（？）、仕事への情熱がないとただのOL保健師で終わると思う。
町の保健師は相談に来られた方の支援については、全て同レベルで重要であるため、選択することはできない
町村には保健・医療・福祉の専門職として保健師しか存在しないことが多い。連携の要となる業務が重要となる。
調査1の問8－2と同様　1．それを差別なく全ての人々に支援すること　2．更に地域におけるキーパーソンとコーディネーターの存在に寄与すること　3．上記を施策化すること
調査2に関して個別事例を担当することはないため記入できません（困難事例についてケアマネや在支とかかわることはあるが）
調査やデータからうかびあがった問題への関与
調査協力したくない
調整、企画能力
調整機能
調整的な業務
調整能力、企画力
調整役
直接、相談にこれずに閉じこもっていて私達が把握していないケースの掘りおこし、関わり。
直接ケースに対して業務（衣食住）を行う職　ホームヘルパー、保健師でできない部分がある
直接サービスから間接サービスの量が多くなっても、住民のニーズを把握し、他機関に自分の専門性をきちんと説明しながら連携することや、その声、ニーズを施策化する力。
直接サービスと行政職としての大きな視野、展望を見すえた企画
直接的な対人保健サービスのみではなく、地域全体の健康づくりに関する取り組み。（地区把握をした上での）（それに見合った人員配置は必要だと思いますが）
低所得者層への保健福祉サービス
提供されているサービスや、ケースのニーズ（要望、必要性）に対する対応について、それが適切であるかのモニタリング
的確に、ケースの情報をとらえること。検診後にフォローの必要な方の事例
適確な地区診断
適確な地区診断
適確な判断力
適時適切な連携で物事が少しでも解決に向かうよう常に情報に敏感でありたい。1つの事例を、他機関とのやりとりを継続し問題が起こる前に未然に対策をねること。
適切なケアコーディネートができる　社会資源や社会福祉等との連携力
適切な地区把握とニーズ調査を行い、統計資料からの現状分析力と事業の企画能力。関係機関との連携とそれをまとめる力も必要。
適切な判断と調整
適切に対応できるよう情報収集と判断能力を身につけること
点を大切にし線につなげ、形にして行ける様な能力
当事者が自分の人生の選択をしていけるような社会資源の情報提供と相談できる保健師の存在が必要と思われる
当事者への自立に向けて、本人・周囲への関わり及び実態から必要な基盤に向けての体制づくりへの関与
当町のような小さな町では、住民との関わりを大切にしなければ信頼される保健師には、なれない。重要なことは、できるだけ多くの情報を得たうえで、決断し、実行し、報告すること
統計処理・分析能力をもって、そこから地域の問題を提示できる力をつけていけば、日常業務もよりやりがいをもってやっていけるのではないでしょうか
統計処理能力、根拠に基づく事業展開
働きざかりの世代の健康面へのアプローチ。メンタルヘルスは大切だと思う
働く場所によって、求められる、又重要と考えられる優先順位が異なるように感じるので特定できません。ただし、健康に関わり全体的な視点でもって事実を考察する判断力は必要だとは思っています
働く場所によってその内容が変ると思います　豊かな教養と、職能を身につけた相手をおもいやる行動の出来る人かな？新しい企画と実践力。
働く職員のメンタル面も含めた健康管理
同じ課であっても他の係との連携は重要である。（保健分野と同時に福祉分野の関わりが必要なことが多い）
同庁内関係各課との連携　関係機関との連携　予算の獲得
得た情報を文章化し、上司や関係者、そして、市民へ伝えることのできる能力を身につけることが重要。
特に介護予防、健康づくり事業に積極的に関与してゆきたい　住民が今、何を行政に求めているのかそれを自分の町の保健事業にどう展開してゆくかが、今後のキー・ワードになると思う
特に他機関と連携しながらすすめていかなければよりよい問題解決はのぞめないような事例への関与
特殊事例に対応出来る広い知識が必要（一般的な知識はもちろん）
独居や、家族の協力が得られない要介護老人への関与。
突発的な事件、災害などに対応する危機管理対策への関与
難しい
難しい。権限がないのでどういう事例にかかわるべきか悩んでしまう。
難支援ケースの支援と関係機関からの相談、助言等によるケース支援へのリーダーシップ
日頃から、健康づくり（介護予防の観点で）、それに伴う地域づくりが何よりも大切なもとだと思います。
日頃からの関係者との連携体制（行政内でも他職との連携→住民の健康づくり　町づくりとして）住民との連携

日頃から必要な情報の収集・判断を行い自分なりの考え（保健）を組み立てておくこと。
日頃の業務を通じての関係づくり　地域の把握（個と集団と）
日常の保健事業に携わる中で、対象者の抱えている問題を明らかにし、必要な支援ができる体制づくり。
日常他機関と地域や業務に関する情報のやりとりや情報を受けての方針について話合う機会を持つことが、問題に対応する上で大切だと感じます。
日々、考えさせられることは、ありますが答えは見つかっていません。
日々、情報は、新しく変化しており、その情報にふりまわされている方もいらっしゃるので、保健師としては、常に、アンテナをはりつめつつ、情報収集し、正しい、適格なアドバイスができるような技量が必要だと思う。
日々の保健活動を地域の課題と照らしあわせ政策に結びつけられること
乳幼児、高齢者等の虐待に関わった際の介入方法
乳幼児、成人、老人の各健診体制が整った現在、結果をもとに、どのような地域作りが必要とされているのか「健康は自ら守る」ものであると同時に「健康は、地域の力で守る」概念で、地域の住民と一緒になって考えて行動するのが、保健師の重要な職能と考える。
乳幼児から老人まで様々な複雑な地域の問題がからみあっている今だからこそ、住民の力を信じて住民と共に地域の健康づくりのために原点にかえって仕事をする必要がある。特に虐待については個人的に興味もあるし力をつけていきたい業務であるが、個別支援でおわれるのみでなく事例の中から地域の問題をみきわめ何が地域に必要か住民に投げかけ、地域の人と一緒に生み出していきたい　虐待に限らず個別からの問題の発掘や予防的視点での集団へのアプローチ、地域をみていく中での行政がとりくむべき施等の見極めと実現など、行政に所属する看護職としての役割が担えるよう力をつけていきたいと思う
乳幼児については、保育園、幼稚園等とは、ちがった専門的なケースとのかかわり。
乳幼児の虐待について（予防、早期発見も含めて）
乳幼児の虐待のケースへの関与、子育て支援に関する業務
乳幼児以外の老人、障害者等の虐待がふえてきている。緊急性のあるケースへの介入事例への関与
乳幼児期からの健康づくり、健康習慣の獲得　生涯を通じて健康ですごせるための自己管理能力への支援
乳幼児期からの健康づくりが将来の介護予防につながる事でもあり、一次予防業務とコーディネイト機能を生かした業務が必要
乳幼児期からの健康教育（家族教育）→生活リズムの見直し　食育　家族のコミュニケーション　性教育（命の大切さ）など
乳幼児期のかかわりから学童・生徒へのかかわりの継続、あるいは他機関（教育委員会）との連携
年をとってねたきりや痴呆になってサービスを調整していくことよりもねたきりや痴呆にならない（予防）ための活動。老人になる前の世代（乳幼児、学童、青少年、成人）への働きかけをしていかないとだめだと思う。元気な老人に転倒予防の講座を行っても効果がうすいことを認定調査に総合病院の整形外科へ行ってつくづく感じた。50床のうち45床以上が大腿骨脛部骨折の老人（女）当番病院の日は5人以上の搬送あり常時ベッドはいっぱい手術後即退院してもらわなくてはならない状況（リハビリまでうけられない）をみて感じた。
悩みをもつ人へのカウンセリング技術
配属された部署における役割の明確化　住民が主体的に動けるような支援のあり方を考えること
配置された部署において、健康課題を把握し、解決していくための計画を立案、実行していくこと
配置される部・課によって、保健師の業務・職能は違ってくると思います。しかし、どこの部署でも、保健師の看護と医療の知識を生かし、他職種、機関、住民とのコーディネート機能と、保健の視点（予防の視点）を、大事にふるに発揮していくことが、必要と思われます
配置分野により、異なると思われるが、個別対応サービスに関して時間を要するものについて、他機関から情報提供や共有があったものへの関与
発達障害児等、他機関との連携が必要な事例。健康づくり、介護予防活動の強化
判断能力が乏しいケースなどへの関与を関係機関と調整する
犯罪など、軽犯罪を徹底して取りしまると大きい犯罪が少なくなると言われていますが、保健師の仕事にも言えると思う。小さな心配事やささいな出来事に地道に対応していくことが大切ではないか。当町は合併の協議中ですが、大きな市になると、なかなかきめ細かい住民サービスがしにくくなりそうで心配です。（相談業務や住民参加型健康教室（大規模なものより小グループ的なもの）
非常に記入しにくいアンケートで疲れたのでゴメンナサイ
必要なサービスを受けられていない人へのフォロー
必要な時に必要な支援をすること、その為にも支援側の態勢は整えておく。
必要に応じて他機関・他職種と連携をとることができるか（業務が複雑、多岐に渡ってきており、ケースも困難事例が多いため）
必要に応じ他機関と連携し丁寧にケースとかかわっていく事
必要時に連携をとりやすいように日頃からネットワークづくりをしておく
評価、分析にもとずき、独自性を発　できるもの
評価されにくいが地域に埋もれている問題をかかえたケースに予防的に関わる。（情報をキャッチできる地域との連携が必要）
評価することその能力、それを事業、政策へと盛りこんで発展していく力
評価をし、事業を見直していくこと、関係機関と連携し、効果的な事業を行うこと
評価を行っていくこと
評価指標に関する視点（計画性のある、根拠の明確な、文章記入の技術）
病院や各機関から連絡があったケースへの対応
病気・障害にならないための予防が本来業務だと思う
病気になってから、また虐待が発覚してから、おきてから、ではなく、そうならないようにする事業の推進や活動。健康づくりや、自助グループの育成
病気になってからではなく健康な人への予防活動
病気や介護が必要な状況になるのを予防するための指導や援助
病識のない精神障害者に対する、ネットワークづくり、対応方法のもさく
病疾の予防活動、保健事業の企画能力
病棟Ns、ケースワーカーとの連携をもっとした方がよいのでは…
不明
不明
不明
不明
不明
不明

普及、啓発等の住民教育
普段からの住民や関係機関との関わりにより、相談、協力しやすい関係づくりを図っておく、それにより緊急な事例等への関与が早急にできると考える。
普段から他機関と連絡をとり、密な関係を築くこと
普段の業務をしている中で、このアンケートを回答するにあたり、かなり負担だと思いました。もっと少ない内容で、電話でのききとりなどの方が書く手間もはぶけて助かります。
普通の暮しが出来ることを保障すること　ケースは、ねたきりだけど、同年令との交流をするとか、保母さんのかかわりが出来るとか、家族も普通に買い物が出来たり外食も出来るとか(ストレッチャーが入れるレストラン)あらゆる調整を実施したり、このケースを通して啓発していく
父、母、子、の精神的なサポート
部署をこえての情報交換や連携が必要になっていると感じています。
幅広い業務。直接的なケアだけでなく、周囲のコーディネート能力を発揮した支援
幅広い業務に対応するための臨機応変さ
幅広い視野と専門知識、調整能力。
幅広い知識、経験のうえでの専門保健師制など各部署でのスペシャリストの養成　多種の関係機関の調整機能
幅広い知識だけでなく仕事の中で専門性を身につけていくこと
幅広い知識と情報収集・分析能力。また、それらを基に、地域基盤を築き、施策の提案、実現する能力。
幅広い知識を取得し、ケースのニーズに応じ、情報提供等の関わりを持つこと
幅広い地識に基づく判断力と行動力
幅広い年齢、健康状態にある人に対し、その人に合った健康問題の解決法を共に模索、実行する専門職。
幅広く対応することも大切なことだとは思うが、1つ1つの仕事を丁寧に行っていくことが大切だと思う。
福祉、医療、教育、保健の分野を超え、一連のつながりのある対応
福祉、介護保険のサービスの適応しない事例への関与
福祉、保健、医療、その他機関にどのような人材や機能があるのか熟知し連携を持っておくこと
福祉・介護の場面で保健師活動をすると、常に多職種と連携しないと、タイムリーに問題は解決しない。保健師はコーディネートする技術は教育されているので、チームアプローチを絶えず意識して困難事例を解決していく手法を身につける。更に予防の重要性を認識してもらえるよう情報の発信に心がけることが重要と考える。
福祉サービスにかからない。問題ケースへの対応
福祉サービスについての情報が知られているようで十分に周知されていない状況です。それをPRし、利用につなげていく役目も大切であると福祉課へ異動してから感じました。
福祉サービス等の概当しない人で健康問題、社会的問題のある事例への関与
福祉との統合により公衆衛生というPHNの業務が薄れがちになっている気がします。やはりこれからのPHNにおいても公衆衛生という観点での活動は大切であると思います
福祉との連携(子供～大人まで)に関する事例対応
福祉にかたよることなく、予防の観点を忘れず、福祉サービスにたよらなくても健康で元気にすごせる人を増やすこと。障害があっても、地域でたすけあいながら生活できるための、ネットワークづくり。
福祉の分野で保健師が働く機会が増え、従来よりも職域が大きく広がってきていることは、とても良いことだと思う。しかし、職場によっては保健師イコール看護師だと考える人達が多くいることを、現職場で強く感じた。医療職としての役割を看護師の範囲だけではなく、保健師の領域まで広げたいと思い、日々の仕事に取り組んでいる。私の他にも、このような立場になり悩やんでいる人達がいると思う。このような立場の保健師がどのような業務を行なっていくべきかという方向性を厚生労働省が現状より、もっと明確にして、施設長に提示していくと、もっと専門職として業務に専念できるのではないかと思う。そうすれば保健分野ではじっくりと取り組めない問題にも充分に時間をかけられる
福祉の立場に現在あるため、介護予防事業への取り組みが重要。
福祉課の障害者福祉に関する業務にたずさわっているため回答が適当でないことがあったかもしれません
福祉課保健師として、・虐待事例への関与　・痴呆の正しい理解のための継続的啓発活動の実施及び、相談、早期発見、早期治療のための保健、福祉、医療のネットワークづくり　・介護予防事業(痴呆予防及び他の予防　生活習慣病)を保健センターや地域型在宅介護支援センターと連携をとり合い実施する
福祉系に携わる人員を増やす
福祉行政(ケースワーク)のコーディネーター的役割
福祉事務所にいることもあり、障害児者の在宅での生活を支えることが必要となってくるように思われる。それには障害者のケアプラン作成などに積極的に関わることが重要なのではないか…。
福祉事務所の中で関わるケースは時として命に関わる様な危機介入事例が多く他機関との連携なしに問題解決、改善は難かしいと思います。保健師として他機関とのより効果的なコーディネートを展開する事と瞬時に優先順位を判断し危機を回避する能力を身につけていく事も大切だと思います。
福祉職との連携、その中での医療、保健の提言
福祉職や医療職との連携によるトータル的サービス提供及び個人のみでなく家族全体を対象として捉えられる他機関との連携
福祉制度が目まぐるしく変わっていく中で、その社会情勢を適確に把握し、住民の要望等を踏まえながら対応していける知識や能力が必要と思います。介護の受付の場面で、医療入院患者や家族が、その対応についての不満を述べていく中で、住民が前向きに取り組めるような支援が大切と考えています。また、個別支援としては、例にもあるような、介入を要する事例への対応、また、関係者(ケアマネ等)への相談支援等は必要と考えています。
福祉部門での業務を担当していると、独居、二人、三人暮らし(65才以上の老人)の世帯が多くなり、対象者への働きかけ(スタッフの少ない中に於いて)特に虚弱老人に対して、介護予防的働きかけをタイムリーにうまく実施していないことに気づかされる。今後、介護保険予備軍に対する働きかけに対して保健事業担当のスタッフと連携をとり推進していきたい。
福祉部門にいると疾病や障害を抱えている住民がいかに多いことか、と実感させられる。若い年代からの予防や、生活習慣の獲得ができるよう、従来の予防活動がより有効的なものになるよう、方法等を見直していくべきだと思う。そういう視点からも福祉と保健の連携ができればよいと思う
福祉分野、介護保険分野に保健師が配置されていない。相談に来た時に専門職が対応した方が、相手も2～3度と来所しなくてもよい場合、適切に対応できる場合がある。多方面で活躍してもよい時代。
福祉分野での機能として機関やサービスの調整や資質向上のための企画　保健部門と連携のうえでの介護予防活動　包括サービスの調整
福祉分野にいると本来の"健康アドバイザー"的視点が見えにくくなるので、自分のおかれた場所での本来のPHNの業務を予防の観念でみつめなおす必要があるのでは…と思います
福祉分野における保健師の役割、立場をもう少しはっきりさせるべき。保健師は起こった事へ対処する職能ではなく予防対策者であり予防の指導者であると思っていますが…どうもそういう立場として仕事を任うことの立場におかれていない市町村が多い気がします。
福祉領域で業務をしている保健師にとって、1. 虐待を疑がわれる事例への関与　2. 他機関から依頼のあった事例への関与　3. 処遇困難事例への関与

複合する問題をかかえるケースへの関与。
複雑なケアマネージメントが要求される事例への関与
複雑な問題を抱えた事例への関与　ケースワーク力が求められるのではないか
複雑な問題を抱えるケースなど関係機関と連携をとりサポートしていく
複雑な問題を抱えるケースについてのコーディネート（自分が担うべきものなのか、他の専門職がした方がよいものなのか判断する視点も必要→保健師は抱え込んでしまう傾向が少しある）
複雑な問題を抱えるケースへの関与
複雑に制度や、多くの職種がかかわる中で、保健師として本人のニーズが、貫かれているか、モニタリング、調整役存在をしていくことが大切。又、実際に、サービス提供する場面の少なくなった保健師が、保健業務の重要性を住民にいかに深めていくか、そのために、いかに地域のニーズをつかむかにかかる
複雑に変化してきている地域における、問題点の発掘と明確化。従来とは異なる手法の検討と実践の中での評価を積み重ねていくこと。
複雑事例への関与と連携・コーディネート
複数の課題のあるケースへの介入、関与能力
複数の機関が関わる事例の調整　情報の提供、支援
複数の機関との協働、連携
複数の部署をつなぎ連絡調整する　困難事例への多職種による多角的問題解決を図る
複数の問題を同時に抱える処遇困難ケースへのかかわり（他機関との連携も含めて）
複数機関が関わる事例でのコーディネート業務　様々な制度には該当しない事例への個別援助
分からない
分からないです。職種として本当に必要なのかさえ分からなくなることがあります。
分かりません
平成14年度からの精神保健福祉業務の移管のため、福祉課（障害福祉担当）に配属されました。今まで、関わりの少なかった、身体、知的障害児者の方々にもたずさわることが多くなりました。手当や、支援費制度等、保健師の出番が、福祉には結構あることを感じました。保健事業はもちろん、福祉の分野も、大切かなと思います。
平成15年度に基幹型の在宅介護支援センターに移動となった。介護予防の重要性を感じている。それにも増して介護予防以前の疾病予防・健康づくりの重要性を強く感じている。保健師の業務とは、本来の職能を生かすためにはどのようにしたら良いのか考えていかないといけないと思う。1．若い時期からの疾病予防健康づくりへ関心を持たせ、自己管理ができる能力を個々人に持たせる（啓発・実行力）
平素から他機関と連携をとる中で、早期に介入し支援すること
閉じこもり、健診異常者、発達の遅れ、ハイリスク妊婦、育児不安、虐待の恐れのある事例への予防的関与
閉じこもりがちな高齢者や、独居老人などの寝たきりの予防となるような地域における体制・組織づくり。
閉じこもりがちな方への関与。継続的に訪問できるとよい
閉じこもりのようなどこの機関とも接触できていない人への関与
閉じこもりの方など、援助が必要と考えられるが把握できていない人の把握と対応。他機関との連携システムづくり
閉じ込もってしまうような方への関与。（地域と交流のない方）
保、医、福で専門的な知識を基にして、助言又、共働く態度
保・福・医との連けいが必要と思うがその調整役
保育、教育部門への関与
保育所における業務で、本当に保健師が必要か再検討の必要がある。
保健、福祉、医療の連携をとり、同じ視点での住民サービスの提供。
保健、福祉、介護に限らず多種の問題を抱える事例には保健師の関与が必要と思う
保健、福祉にも、各職種が広がっているため、役割、業務を明確にしていく必要がある。・精神科の事例への関与。・障害者へのサービス調整への関与
保健、福祉事業の企画、立案、他機関との連携のための調整役と思われるが、合併がすすむ中、行政保健師と、民間事業所で勤務する保健師の業務内容が大きくちがってくると考えている（合併したら行政保健師は減らされる）
保健・医療・福祉サービスに関わる機関との連携。その中でいつも当事者のそばにいるという視点をわすればにいること。
保健・医療・福祉の連携を行う。
保健・医療・福祉をつなげる役割
保健・健康増進分野と福祉分野に大きく分かれると思います。従来は保健・健康増進分野が主でしたが福祉分野での保健師の職能がとても重要になってきています
保健・福祉・医療の各分野での保健師活動の実践が重要と思う　各分野での住民との協働活動　新事例のつみあげによる、業務の認知にむけた取りくみは大切と考える。
保健・福祉・医療の連携、コーディネート。地域住民の理解・参加・協力が得られるような事業展開
保健・福祉に携わる職種が多くなる中において"保健師の業務"と問われた時に明確に解答できるものを模索しているところです。
保健・福祉の分野において様々な職種が社会で活動している。保健師とは何ぞやと問われた時、その答えはあまりに抽象的ででもどのような答えも保健師としてあてはまるものではないかと思う。ある時は先導者となり、ある時は縁の下の力もちとなり…これはぜったい保健師だけの仕事というものでなく、個にとって不足しているものを補える、または補えるべく社会資源を模索し、連携していくことが保健師ではないかと思います。
保健・福祉等多分野において、対人保健サービスのコーディネイト機能を充分生かした業務を推進できる技量を備えること
保健センターにおりますので何かおきたらという前のそうならないようなという部分への関わり
保健だけでなく、福祉サービスの必要な事例　より専門的な知識と、他との連携をとるにあたっての技術
保健だけでは課題を解決できないことが多いので関係機関の連携が今後ますます重要になってくると思う。
保健だけでは対応できないので、他機関との連携と、どこの部署とかかわる必要があるのか等の判断力
保健だけでは対応できないので、他機関との連携と、どこの部署とかかわる必要があるのか等の判断力
保健とか福祉とかの分野だけに固執せず、住民（個人）の生活上の問題解決に向けての関係機関との調整や、人間関係の調整などへの関与。
保健と福祉に関わる保健師の連携　保健・福祉いずれにおいても個別対応、訪問の重要性を再認識することと、業務の見直しが必要
保健と福祉の壁を取り払い、老人保健事業・介護予防事業を一体的に展開していくことが重要と考えます。そのためにも、介護予防事業に保健師が介入してゆくことの重要性を国においても、さらに示していただきたいと思います。
保健と福祉の両面からの危機介入事例への関与

保健と福祉をつなげる調整役、個々の事例から地域の課題を見い出し、地域住民や、関係機関と解決方法に取り組むコーディネート役
保健ニーズの把握と施策化
保健に携わる立場上、健康増進、疾病予防に関する業務　保健師自身の自己研鑽
保健のまえにしっかり医療現場、疾患がわかることが必要だと思います。役割は違っていても保健師は看護師の免許を持っています。最近、耳を疑うような疾患の説明をしていることがよくありおどろきます。素人みたいでガッカリします。
保健の現場から介護の現場に来て、業務を覚えるかたわら、日々これからの保健師のあり方、役割は何か、考えつづけています。社会状況の変化の中、いろいろな制度体制の中ではたして何ができるのか。職能の存亡がかかっているのではとの感覚をおぼえます。1. 児童、高齢者の虐待防止　2. 予防に重点をおいた積極的な健康づくり　3. 困難事例への対応
保健の分野では町民の持つ健康問題について1. 個別的側面と2. 町全体の傾向的側面の両者へのアプローチ。2. については情報を分析してPlanDoSeeと言われる政策立案し実施から評価までの道すじのある事業展開をする能力が今後重要だと思います
保健活動でどんな対象者でも予防活動し、問題をもった対象者であれば、改善又は維持増進できるよう支援していく
保健活動の原点である、公衆衛生や予防活動は重要だと思います。
保健活動の充実と、多職種間との連携・コーディネイト
保健活動の評価
保健活動を行う際にかかわる様々な職種の連携をはかるための連絡・調整の業務　市町村保健師は自分の担当地区の地区診断を正確に行い、住民のニーズを把握すること。
保健活動を地域づくりという視点からとりくんだ事業の企画・運営
保健業務として、予防活動の充実。なおかつそれを実施していくために、関係機関との協力や理解を得ながら行なう。
保健業務と言われているものや与えられたものだけを行うような業務＝目的となってしまわないこと　健康をきり口にした地域づくり(システムづくり)ために企画・調整を行うことが重要
保健業務の他、介護予防のための援助等
保健業務の中での個人の専門分野をもつこと
保健業務は範囲が広すぎる。何でも屋になっている。他職種と役割分担し、もっと専門性を持つべき。住民に一番近い相談役であり、地域における健康問題に取り組むこと。
保健計画作成、事業の適切な評価
保健師＝訪問する人というイメージを全ての人が持ってくれるような活動が重要だと思います。どんどん減っていて恐いです
保健師がかかわる範囲が広くなっているので、保健師の中でも専門性がもとめられるのではないか　母子、小児、介護、成老人etc
保健師がどういう仕事をしているのかを知らない住民の方が大勢います。依頼を待つこと以上に保健師の顔を身近に知ってもらうことの重要性を感じます。
保健師がどの部署で働くかによって異なると思います　自治体で働く者にとっては、行政マンとして保健分野を中心とした政策づくり、地域づくりが大切かと思います
保健師がどの部署で働くかによって異なると思います。自治体で働く者にとっては、行政マンとして保健分野を中心とした政策づくり、地域づくりが大切かと思います
保健師がどんな仕事をしているのか、どんなことができるのか、周知し、理解を得て、もっと連携できるのがまず第一だと思います。又、理解してもらうために、理解することも。
保健師がひとりでやれることには限界があるので住民との協働がすすめられる力を養う、連携をとり役割分担をしながら事例にかかわる
保健師が医療職であることの認識が保健師自身・周囲の他職種に欠けている気がする。
保健師が一人で解決するのではなく、それぞれの事例に応じた関連機関との連携にもとづき、取り組むことが最も大切であると思う。
保健師が関わる対象者は幅広く、様々な知識や技術が必要となって来る。最近では他の専門職種の活躍がみられる一方で、PHNの役割や専門性が薄れてきているように思う。PHNとしても、専門分野なるものを持ち、積極的な活躍が必要なのではないかと考える。
保健師が行っていることを住民や他職種にもっとアピールし、理解を得ていくこと。
保健師が多くの分野で活動するようになってきているため、保健師同志の連携と、全体を見通せるようにすることが必要。各々の領域での活動だけでは全体としての予防活動がとらえにくい
保健師が働く分野も幅広くなっているので、より専門化している。専門化している中で、よりよいネットワーク、よりよい連携が大切となってくると思います。
保健師が保健分野以外に出ていくことが多くなるが、常に福祉職との連携や保健師の目を持ちつづけられることが大切だと思う。ケースの心や健康についても関与していく
保健師だけでできないことは多々あるため、他機関との連携やネットワークづくり及びそのコーディネートが必要
保健師だけではかかえきれない事例をかかえないで他職種と連携をとりながら保健活動をすすめていくこと
保健師でも配属部所によって重要と考えられる業務はちがってくると思います。
保健師という仕事は、簡単に地域の人のそばに行け、簡単に個別に面接ができ集団にも関われる。その特性を生かし活動を展開していくべきである。また、現在の情勢を見すえて、何に焦点をおき活動をしていくか考えていくべき、そしてこの活動を、保健師という専門職のみの情報共有でおわらせるのではなく、行政職員同士でも行うべきである。自分のいる自治体をよくしようという意識をもって、他職種とも連携していきたい。
保健師という職は何が専門なのか考えます。
保健師という職業にとまどいを感じているところなので、逆にアドバイスをいただきたい。
保健師という職能ではあるが、自治体職員でもあるので、地域づくりを視点においた業務をすべきと思う。住民の生活の場に最も近い所で活動する保健師だから、個人が見え、家族が見え、地域が見えて来る。本来プライマリケアの実践者である保健師が、当り前すぎて見失っている気がする。今後も、活動のスタンスは変わらないし、どの部署でも、職能を生かした活動はできるという意識を持つ事が重要と思う。
保健師という専門職である前に、行政組織の一員であることを意識した仕事の取り組みをすべき。総合的に地域全体を見て1つ1つの事例を積み重ねて、そこから自分たちの役割を考えられような業務をしてほしい。介護保険が始まって介護支援専門員がケアマネジメントに取り組む様子を見ると、これまでの保健師職能のアセスメントやモニタリングの甘さ(甘え)、根拠を持たない、法律も見ていない業務では、世の中から必要とされない時代が来るのではと危機感を感じます。
保健師という専門職としてだけでなく、広く行政職としての意識を持って、他部門との連携を図っていかなければならないと思う
保健師という専門性の確立、役割の明確化
保健師という枠を外れても、対応できる事務能力、柔軟性
保健師といってもどの組織に所属するのかによっても「重要」となる業務に差が出てくると思われるが、私は行政の保健師なので、その立場で一番しなければならないことは何なのか(現在の業務も含めて)を、一緒に働く仲間(同職種)と議論し整理できたらいいなあと思っている。
保健師としての基本的な業務(役割)を大切にしたい
保健師としての業務内容、成果の同じ職場内や市民に向けてのアピール→幅広い連携にもつながると考えるから、事業評価のためのスキルの獲得
保健師としての視点を持ちながら、対人サービスから企画・運営に関わる上での調整能力が必要と感じる。
保健師としての専門性の確立

保健師としての専門性を高め、保健事業の評価を行いそれを住民に対しても示していくことが必要
保健師としての専門的な業務に加えて、行政の中で働いているため企画力、調整力が必要
保健師としての専門分野の確立(専門看護師のように)
保健師としては、予防活動が大切ではないかと思う　地域全体を考えることが大切と思う　各事例への関与の重要度は、そのために必要なことでどれが重要とすぐ決められるものではないかと思う。
保健師とっての重要な業務は地域住民が安心して暮せるシステム作りと思う。感染症であっても、母子保健であっても、関係機関が各々の機能を明確して連携しあうシステムが大切である　これは事例への援助のみならず地域社会におけるシステムの構築が重要である
保健師とは何をする人か住民、行政にしっかりと理解してもらう為の機能発揮
保健師と事務職の職能について明確にわけてほしい専門性も求められるが、事務も求められどちらもしなければいけないので、保健師としての職能が発揮しづらい
保健師ならではの住民に必要性があると思っていただけるような活動
保健師にかかる負担(精神的な)の軽減　折衝能力の向上
保健師にとって、重要と考えられる業務と職能ー思案中　迷いながらまだ仕事をしている段階です　現場、地域をみることも大切だし　机上、事業の評価をきちんとしていくことも大切　対人能力、政策能力　あわせもちコーディネートしていけるといいとは思います
保健師にとってと言うより、保健センター機関として担う役割りへの関与
保健師にとって重要と考えられることは、地域活動、予防活動と考える、問題が起こる前に予防すること
保健師にとって重要と考えられる業務は・自らの健康のために自ら判断し、行動できる人、地域にすることである。と思っている。そのため依頼心、依存心を育てたいこと。そのため個別事例相談があった時、その判断をすることが必要だと思う。
保健師には情報整理及び緊急性を判断する能力を研鑽する必要があると考える。
保健師のかかわるケースは困難事例、複雑な場合が増えてくると思われる。経済面、介護拒否、家族間調整など関係機関が役割分担してかかわることが必要、専門職としてコーディネートできるかがポイントであり、保健師はロだけと言われないために要所々でタイムリーに動かなければ信頼されない。また、情報収集・分析していかにデータで示せるかも大切
保健師のみが担える分野、問題発生の予防が重要かと思う、問題がおこってからの介入は確かに結果がわかりやすく活動もアピールしやすいが、予防のための健康教育、そのための統計処理、地域特性の理解など、目に見えにくい分野での活動が本来重要かと思う。
保健師のみでは対応が難しいケースへの関与が少しづつ増えている。それぞれの職種が得意分野を生かしチームで関わっていくことが大切だと感じている。
保健師のみで行うのではなく、地域を支える一員にすぎないと保健師自身が自覚すること。地域にあるさまざまな資源人材と手をとりあって人を支えていく。
保健師の介入を求めない事例への関与
保健師の活動の範囲が、社会情勢の中で、年々拡大しており、本来のあるべき姿がうすれてきているように思う。時代の流れに添った活動が多くなった分、とまどうことが多くなってしまった。
保健師の活動範囲が巾広く、とらえ所がない　地域・家庭訪問を重視したい
保健師の活動範囲が広がってきている中、どの分野でも、保健師の専門的知識・技術が求められる。本来(従来の)の活動にとらわれていては、行政、住民からも必要とされなくなる。保健師自身の中に基本として、疾病予防や健康づくりに対する考えをしっかりと持ちながら、活動していくことが重要
保健師の独身である家庭訪問を生かし、活動していく必要性を感じる、どの事例が重要というよりケースバイケースでの対応
保健師の業務が他職種とちがい、不明瞭な部分がある。なんでもできるようで、なんでもやってしまいがち。ここまでが保健師業務だという境がそれぞれちがい、自分で自分を苦しめているように思う。現在は、いろんな職種がでてきたので、保健婦って、なぁに？と考えさせられることも多い。
保健師の業務と職能の確認
保健師の業務は大変多様化しており、保健・福祉・教育等のあらゆる場面で関与している。業務の背景(法的根拠など)をとらえ、チームで関わりあえる様なネットワーク作りが必要だと思います。
保健師の業務は幅が広くあさく感じます。これから先、〇〇専門保健師(その分野を専門に行うPHN)があってもよいのではないかと思っています。
保健師の業務も多様化し、虐待や命に関わる個人へのアプローチと地域全体の健康づくりに分れると思う。どちらも重要な業務であるが今後、マンパワーの充足がされれば、個人へのアプローチをしながら、地域全体の健康づくりに取り組めるのではと思う
保健師の業務を整理文章化し、誰もが分かりやすいものにし、連携をよりスムーズにすること。
保健師の業務内容の範囲整理と他職種との連携が重要と考える。社会資源の情報確保と発掘も大切だと思う。
保健師の仕事がなんなのかみえなくなってきています。
保健師の仕事の幅は広いので、分野ごとの専門職となり活動していった方が良いと思う。
保健師の仕事の分野が大きくなり、何でも保健師が対応をせまられることが多くあるように思う。関わる範囲を明確にしつつ、対応していくことも重要と思う。
保健師の仕事は、必要に応じて、コーディネーター的役割で業務を遂行することもあるが、日常的には、健診、相談、地域訪問等、住民と直接関りながら仕事をしていることが多いと思います。小さな町ほどその傾向が強く、住民からの要請も高いと考えます。このような日常業務の中で上記、記入例の様なことがあれば、優先的に関与しています。地域に居住して保健師をするということは、住民との関わりを大事にしながら、そして信頼関係を築いているのだと思います。この様な関係ができていれば困難事例があった時にも介入しやすい。日常的なきめ細かい関りがより必要と考えます。
保健師の仕事は一次予防、であると思う。
保健師の持っている力を多くの場で生かせると考えられる。本来の業務とは能力を生かせてこそだと思う。
保健師の持つ役割の1つとして他機関とをコーディネートする役割があるかと思います。専門的分野の広範囲な知識習得も必要かと思います、どんどん人間離れしていく中、保健師の姿がどうあるべきか考える必要があると思います
保健師の所属部署によってもちがうと思うが　1. 命に関わるような危機介入事例への関与　2. 生活(在宅)継続困難事例に関する相談への関与
保健師の職能はやはり予防業務ではないかと思います。それは保健予防・介護予防だけでなく、どの部署においても常にそのような視点をもって仕事をしているからです。優先順位的には、命に関わるような危機介入事例(感染症予防も含む)慢性疾患や障害者への支援、母子保健活動、健康増進活動だと思います。保健、福祉、医療と連携が大事だと言われますが形こそそうなっていてもなかなかうまくいかないような現状があり、保健師も、あらゆる部署で(行政、教育)予防的な事業の企画ができることが良いのではないかと思います、その上で保健師間の連携や情報交換をしていった方がスムーズな気がします。
保健師の身体のしくみについての知識。解剖生理、生化学の分野を深く理解し、住民に伝えていく能力
保健師の人間性を育てるような事例への関与のしかたが大切と思う。
保健師の専門性というものがいまいち捉えにくいところですが、保健師はいろいろな職種の方々と連携をとらなければうまく業務をすすめていくことがむずかしいものだと思います。情勢を見極めて、その変化にうまく対応していかなければならないと思うし、昔に固執せず新しい情報を取り入れ、住民には選択できる力をもつことができるようにしていければと思います。具体的にこれ！！とはあげられません。

保健師の専門性に対して求められる職域は拡大しており、要請される分野で各々が真剣に取り組むことで保健師の将来展望は開かれるのではないかと考える
保健師の専門性をいかした活動。保健師とダブル活動をしている職種や機関が多く、保健師としてどう活用していくかが、考える事が重要。保健師活動はどうなるのか不安(保健師の専門性とは?)
保健師の専門性を生かした、健康づくりと予防活動
保健師の存在をもっと知ってもらうためのPR活動
保健師の担う役割は多岐にわたります、より専門性の高いサービスを提供するためには、福祉介護保健etcそれぞれの分野でさらに母子成人とライフスタイルごとにその専門性が発揮される様な人員配置と職場の機構が必要であり、それに応じられるスキルの高さが必要であると思います
保健師の特徴が出る業務　地域住民と密に連携をとりながら事業をする
保健師の本来業務である予防活動とケアマネジメント。他職種との事例の共通理解を得るための活動
保健師の本来業務の遂行(実際出来ていないので)地区把握に基づいた、健康問題の分析→事業の立案、実践、考察(統計的なものも含め)
保健師の役割について、他職種や、住民に、アピールできるよう、自分の仕事の評価をしていくこと
保健師の役割の確立、明確化
保健師の役割を再検討しなければならないと思う
保健師の役割を他職種・機関に知ってもらうよう担当者会議等の場に出て働きかける、他機関から協力依頼がでるような存在になる必要がある
保健師の立場…行政的な視点、保健のスペシャリスト、福祉的な視点と今迄にない求められるものが他の医療職より最も変化してきている。今後、そのようなサプライする知識情報の職能として活動する事が望まれるのではないでしょうか
保健師は、だれでもが生活する毎日の中で、ごくふつうに経験するできごとを、健康や、安全をおびやかすことのないように科学的に伝えられること。自分の日々の生活の中での感性をピカッと科学する力を持ちたいなあー!
保健師は、なんでもうけおってしまいがちなので、そうではなく専門機関があれば、そこと連携をとり、より専門的な視点でケースにとって望ましい生活にしていくこと。一人でかかえ込まないことが本当に必要。
保健師は、関係機関への橋わたしが大切だと考える
保健師は、予防活動が重要だと考えます、公的機関の保健師にしか、出来ないことだと思います。
保健師ばなれとならないような教育の体制づくり→次世代育成の強化　経験から仕事の評価、保健師のあり方は、必然的に今の50代はみえているように思いますが、今後この考えを継続させていくために、今の保健師の卵にどのように伝えていったらよいのか日々悩んでいます。
保健師は医療モデルで関わりがちであると思う。他機関からの依頼もどちらかといえば医療ニーズの高い紹介が多いが、もっと生活モデルでみていく、関与していくことが重要と思う
保健師は今後増々、様々な部署で働くようになっており、それぞれのおかれた立場によって、重要度(優先順位や目的とするところ)が変ると考えます。自分のおかれたところがめざすものにそって、きちんとわきまえた仕事をしていかなければならないし、他の部署で働く保健師と連携して、地域づくり(保健の視点を大切にした)をしていくことが大切と思う。
保健師は多職種の職員や住民等と連携及び協働して保健活動をすることにより、依頼のあった事例や支援が必要な事例に対して、きちんと対応すべきである。もし対応しない場合は納得がいくように説明することが必要であると思う。健康に関することで携わる所がない所を対応する。
保健師は本当に必要なのかどうか今の私はわかりません。
保健師は役に立つ専門職として理解してもらえるように、あちこち関係する事業に関わりをもち連携の幅を広げていく。その上で地域の健康づくりを皆で考えていくことが大切かと思う。
保健師も業務が専門化しているので、それぞれの分野で協力していく姿勢、能力。
保健師をとりまく環境(制度や社会の流れなど)が変化していっても住民と一番近いところで住民の声をきき反映させていく職種でありたいと思います
保健師育成のシステム作り、今の職場は保健師が育たない　体制であると思われ、何よりもまず第一に育成システムを作るのが大切と思うし、自分も積極的にかかわりたいと思っています。
保健師外の専門職が増えている中、すみわけかつ連携は重要と思います。優先順位　判断能力がさらに問われると感じています。
保健師業務が広域的になっており、日々の業務で忙しいとは思うが、介護保険の認定調査と独居老人への介護予防と家庭訪問そして、虐待疑いのある家庭への訪問をリンクさせて実施できればいいのではないかと思う。他市町村では、認定調査を保健師が行っているようなので、是非、適正な調査のためにも、保健師の業務の1つと考えて頂ければと思います
保健師業務が広範囲に渡り、それぞれ専門性が要求されるが関与できるかどうか(たとえば精神保健、児童虐待の発見等)
保健師業務に関連する種々の制度・法律や地域の状況を把握、理解したうえで長期的にみて健康問題解決するための企画立案力
保健師業務も多様化してきている。その中で関係機関との連携や他職種との連携、ケースをどのように守るのか巾広い知識や技術、心が要求されてくる。保健師同士が、互いを認め合いながら、社会情勢に則した活動が出来るように自己研鑽をすることが重要と思われる
保健師業務を目に見える形で評価しそれを他職種(事務職)へPRし認めてもらう事が必要と思います。
保健師業務内容の見直し　・少子高齢化へ対応した業務の構築　・10年後を見すえ介護予防の強化　・保健事業をスマートにして、福祉分野でも職能として関与できるよう視野の広い保健師が求められている
保健師個人で働きかけるのではなく、委託先の相談員やケアマネージャーなど他機関を動かすためのコーディネート力が必要
保健師個人個人の力量のみでなく、同じ職場内もしくは他の機関の保健師と連携をとりながらすすめていくことができる、チームワーク力が必要なのではないかと思います。
保健師自らがケア・マネージメントができる力量も必要だが、他機関の他職種が行うケアマネージメントに対して指導ができるようになる事。また、ケア・マネージメントのできる人材を育てる事が重要
保健師自体が必要であるとは思えない。最近専門職は細分化しており、その中で「保健師」でなければできない業務というのはないように思える。
保健師単独ではなく、他機関、他職種と連携して事業、事例にあたっていくこと
保健指導
保健事業にかかわる保健師は、保健予防活動に力を入れるべきであり、福祉事業介護保険事業にかかわる保健師は、相談業務アセスメント能力を高めるべきと思います。公衆衛生を考えるなら、保健師は、福祉より保健(予防)が本来の業務と思います。
保健事業の実施だけでなく、地域の健康問題をいろいろな視点からながめて、連携していくこと。かつ、評価していくこと。
保健事業の充実　福祉との連携
保健事業を行う中で出会った事例との関係づくりを大事にしながらエンパワーさせ、自立への援助を行うこと。
保健事業を実施しながら、個々のかかわりを大切にしてゆく。かかわりの中で必要な事業を見きわめ、反映してゆく。
保健所:感染症や、災害対策などの危機管理。精神、難病、結核の管内均一サービス。市町村:健康支援(健康づくり含む)、生活(居宅)支援を総合的に事業化してゆくこと
保健政策の立案と評価　他機関や住民との連携の強化
保健婦へのバックアップ　協力要請時に即対応してくれるこまわりのきく体制

保健部分での住民の健康度up
保健福祉の他職種の中で医療面での連携や知識を磨き専門性を発揮した事例への関与ができること
保健福祉施策への参画
保健福祉制度の充実
保健福祉分野における住民ニーズの施策化　健康寿命の延伸
保健分野での行政サービス向上のための組織及び業務展開の検討。
保健分野に働く者として予防活動をもっと広げていきたいと思う。そのために連携が必要な機関は多分今まで連携してきた方々とは違う職種やグループ、住民組織なども多くあると考える。積極的に連携をとりながら調整機能を発揮できれば良いか
保健分野の知識啓発
保健予防
保健予防的な業務が大切と思う
母子　・子育て全般への、母の支援（虐待等と関連して）　・健全な成長、発達への関与（基本を忘れずに）　成人ー地域全体としての健康づくり
母子（親子）の健やかな暮らしのための支援　老人の生きがいを持った暮らしのための支援
母子（父も含めて）の健全な成長への支援　子育てをする母親が十分に成長していない場面を度々経験する。連鎖する未熟な母子を少なくできるような方策を考えていきたい
母子、高令者とも、虐待のケースについて、介入していながら事件に発展してしまうケースは、行政の対応が問われてくる。踏みこむことに考えないといけないと思う。
母子、成人、老人どの分野も事例を通して、他機関と連携するのみではなく、その中で情報を集約し、予防活動を転開するシステム作り、まちづくりが重要と考えます。
母子、精神、難病、高齢者、感染症等　個別事例に対するアセスメント能力と対応技術　地域ネットワークの構築
母子、老人　成人など、広く浅い知識ではなくそれぞれの専門分野をより深く理解していくことも、大切だと思う
母子、老人、産業保健などいろいろな対象者のちがいはあっても予防活動
母子、老人共に虐待やDV等、生命に関わってくるケースへは最優先の関与が必要と思う　又育児問題の母が増加していると思われ育児支援のできる集団個を含めての業務が重要と思う
母子、老人保健法などの法律のもと、行ってきた業務が、今は、他のいろんなマンパワーにより、充実されてきていて、今後、保健師として世の中にその位置を認めてもらえるような仕事は何なのか、本当に不安です。
母子…1. 障害児への支援　2. 虐待予防、児への支援　成人…若いときからの健康づくり　精神…地域の偏見への啓発　老人…介護予防　地域でのネットワークづくり、地域づくりが全年代に通じて大切！→でも今後2～3年間は合併に伴う事業すりあわせとスタッフの再編成等が大変です。（新しく再構築）
母子から乳幼時期、強いては学童期、青年期まで介入しての精神的・肉体的な健康づくり全般を優先、次に成人期の健康づくり
母子でいえば、・子育て支援、少子化対策　・虐待予防　カウンセリング能力、人脈、調整力
母子については虐待予防　成人については健康づくり　老人については介護予防
母子に関して、虐待や育児不安等の事例への関与
母子に関しては虐待予防、成人に関しては生活習慣病予防、高齢者に関しては介護予防の視点で、必要な知識を身につけ、保健師だけで抱え込まず、関係機関と連携をもちながら関わっていく
母子の危機介入事例
母子の危機管理に携わる事例の関与
母子の精神的、身体的ストレスの軽減
母子健診…児の心理面において問題行動を本当に問題があるかどうか見きわめる能力
母子事業の移管以降事業にしばられ、あまり専門性を求められない窓口に張りつけにされてしまう場合がみられる。事業を越えて専門性の発揮できるような保健師の位置づけが必要
母子保健
母子保健
母子保健（最近気になる子供が増えているため）　成人の予防活動
母子保健（児虐）、成人、老人、精神保健等、いろいろな分野でより専門性を高めたかかわりが、必要である。その中で、他機関との連携が、必要により生じてくる
母子保健：環境整備を含めた子育て支援の充実　精神保健
母子保健でいうと虐待が増加しているので対応する力と見極めの力
母子保健では子育て支援や虐待予防、虐待事例への介入、精神保健、結核等多岐にわたりますが、相談のあったケースというのはやはりそれなりに対応が必要だと考えます
母子保健における育児支援等
母子保健について、虐待事例への関与　精神保健について、受診につながらない事例への関与
母子保健にもっとかかわっていく必要があると思う
母子保健に関する業務　精神保健に関する業務
母子保健に関する事例への関与　・精神疾患のある母親への支援　・虐待事例への支援
母子保健に関わる支援　虐待事例や発達障害児の事例の増加による関与が望まれる他、正常な発達をしている事例においても、母子に積極的に、継続して関われるのが保健師としての職能だと考えます。
母子保健のケースが深刻化してきているので、全住民に対する「生命の尊さ」の啓発が重要になってきていると思う。
母子保健の充実（家族保健？）　・子育て支援・思春期保健を充実させることで、危機的事例は減少させられるのではないか
母子保健の全数把握はこれからも重要　更に虐待予防及び早期対応をする。
母子保健の分野では虐待予防の活動（家族の育児ストレス軽減のためのサービスも必要）
母子保健の分野においては、これから特に他機関との連携が必要になってくる。
母子保健の立場として、・育児不安の強い母への支援　・ハイリスク（若年・高年）妊産婦への支援　・健診時のスクリーニング（病気・障害などの早期早見・療育へつなげる）　・健診後のフォロー
母子保健を中心とした予防活動、健康づくり活動
母子保健活動　母子は全ての（ライフサイクルの）始まりだから…。
母子保健業務　・母の育児を支えるネットワーク　・ケースマネジメント力　行政の中で専門機能を生かした企画調整力
母子保健業務　虐待予防、母性及び子どもの健全育成
母子保健業務　能力：洞察力が必要
母子保健業務、母親等子どもを育てる側への支援と共に子どもの安全性を常に考慮できる客観性をもつこと。
母子保健業務ー子育てについての地域の役割が以前に比べ弱くなっているので　そういう所への関わりが大切になるのでは

母子保健事業
母子保健事業(子育て支援　ハイリスク児のフォロー　虐待予防
母子保健事業の充実と個別事例への対応
母子保健事業の中では乳幼児の虐待発生予防に対する取り組み。
母子保健全般
母子保健担当なので…妊娠、出産、育児について広く住民が関心を持ち、正しい知識を得ることができるよう普及、啓発。他機関、職種との連携。フォローの必要な人へ適切な時期に対応できる。(たくさんの業務があっても身軽に個人個人へも対応できる。)
母子保健等において各専門職が連携しあい、いかに次世代の子を健康に育てていくかの協力体制の強化
母子保健ー特に育児ストレスや虐待の問題
母子保健保健師にとって重要な業務　1. 虐待ハイリスクの母子の把握と対応
母子ー母の育児態度・児をとりまく環境
母親の育児不安への対応
母父子の関係がうまく機能し、育児不安、虐待等のトラブルを回避できるような業務
包括的な健康づくりのため、地域を分析して得た情報をもとに、事業展開をすること、また、その評価を十分に行うこと
法の整備のされてない事例への関与。
法や制度ではカバーしきれない事例への関与
法律にもとづいて業務を行う保健師に何ができるのかを問いたい。できることよりもできないことの方が多いのが現実です
法律の事業だけでなく予防的活動をもっと積極的に取り組んでいかなくてはならないと思います
法律等を含めより実用的な知識の修得に努め、民間では対応が困難な事例等に対処していく事
訪問
訪問が一番重要と考えます。
訪問したら、精神病院退院間もない対象者が昏迷で倒れており、救急車で病院へ搬送したことがあった。命に関わるような事例には自然と巻きこまれやすいので関与は必要だと思う。
訪問や健康教育を基礎とした、保健活動がやはりいつまでも一番重要だと思っています
訪問活動を本来の業務とし、命に関わるような危機介入の事例や他機関から依頼のあった事例についても積極的に関与できたら良いと考えています。しかし本来の業務と書きながら私自身、未だに「本来」の意味と充分に咀嚼できていないと思うところが本音です。
訪問看護ステーションやケアマネジャーがいるようになって保健師のしていた仕事を荷ってもらえるようになった、今後は健康増進や地域づくりを支援
訪問等で積極的に現場に出て、住民の方の声を大切にしながら、健康づくり、予防活動をいろいろな職種・機関のと連携のもとに行う。
豊かな経験、豊富な情報源を持っていること　関係機関との適切な連携
豊かな発想
本人、家族が健康上の問題を抱え、処遇困難とされる事例
本人・家族が、自分の将来像を描けるような事例への関与
本人・家族が自分の将来像を描けるような事例への関与
本人が、また家族が予測できない危機に対して、予測し、必要な情報、サービス等を提供していくこと
本人が改善したいと考えているケースへの環境を整えること、それに必要なサービスを連携させること、サービスをつくり出すこと。
本人の自立支援に関わる事例への関与
本人の精神身体状況がよくわかる　また、今後の予測もわかるのでその点から、病状の重い本人と家族を支えていきたい
本人の病識がなく医療につながらない(又は本人が困らず周りが困るなど)ケースの担当にあった時、職能として面接技術及び対応の仕方の知識が求められる　市町村には、医師又はスーパーバイザーになる存在の人がいないため、精神単独にかかわらず、対応しにくい母子のケースなども増えている様に感じます
本人を取りまく関係スタッフを上手くまとめ、積極的に検討会などに参加し、コーディネートすることです。※今は全くそのような保健活動のできる職場ではないので(介護保険)今回のアンケートは非常に答えづらく、考えさせられました
本来、疾病の予防や健康づくりの業務が最も重要だと思うが、それ以外の仕事(介護、障害、子育て等)の職場にも1人だけの配置ではなく、複数の配置されることで、連携がしやすくなると思う。
本来、疾病の予防や健康づくりの業務が最も重要だと思うが、それ以外の仕事(介護、障害、子育て等)の職場にも1人だけの配置ではなく、複数の配置されることで、連携がしやすくなると思う。
本来の業務からフォローされているケースと、それらのケースが出てこない様な予防的フォロー
本来の保健師の業務である保健予防活動を医療費削減や介護予防とからませながら、住民の特性を把握し、その土地その土地の住民にあった予防活動を明確にして、とりくむということに行政が、たちかえってとりくまなくてはならないと思う。
漫然と家族の代行や援助を行なうのでなく、決断・実行を促す介入のための予測と判断　当事者自身が、必要時に援助やサービスを受ける力を培っていことができるような援助のし方が必要である
民間が関わることができない(利益につながらない)事例　頻回訪問必要(虐待)、訴えが多い(精神、痴呆)　コーディネート能力、行政の保健師であれば行政能力(施策化、法整備)判断し、責任をとっていく能力(社会人としてあたり前?)
民間でできることはどんどん民間へやってもらう、行政でしかやれない部分を行政PHNは役割を担うことが大切。
民間を含めた種々のサービスのマネジメント能力
民間事業者等への相談、業務、問題を整理し、処遇の方向性を決める
民生委員など地区住民から依頼のあったケースへの関与
命、家族の生活の質に関わる事例への対応と、地域での対応方策への関与
命・メンタル分野危機介入　家族のフォロー
命にかかわるような危機介入事例の関与
命にかかわるような危機介入事例や、専門性をもとめられる事例で他機関から協力依頼のあった事例(精神など)には、積極的な関与が必要と思う。保健師のソーシャルワークの技術と知識を福祉サイドで多くの事例へ関与していけば、より問題解決される事例が増えると考えます。
命に関かわるような危機介入事例への関与
命に関わるケースへの介入　保健予防活動(1次予防事業)同じ位で…
命に関わるケースや多問題ケース等、危機介入事例への関与が必要であり、そのための教育、研修が必要。
命に関わること　他機関からの依頼　住民のニーズに合った活動
命に関わるほどではないが将来危険な事態になるおそれのある事例の事前の関わり(早期の関わり)が今後必要だと思う

命に関わるような、危機介入事例への関与（集団への対応も含む）例えば、災害時や感染症対応等も含む。
命に関わるようなケースの将来を決めてしまうような危機が発生してからの対応ではなく未然にそれを防ぐこと。（地域のつながり・枠が育まれ、住民の方々が、それらを上手く利用するような力を持ってもらえるような何か取り組みができれば）
命に関わるような危機が予想される事例への予防的関与
命に関わるような危機介入
命に関わるような危機介入はもちろんのこと、予防面も大切　また、障害がおこった時には対象者全体をとらえ、障害を最少限にできるように働きかけ（他機関の調整、本人に対して）ることが大切だと思います。
命に関わるような危機介入は保健所だと思うがその次のレベルで困っている人に対する対応は一番必要とされることだと思う　私個人としては困っているとSOSを出した人への支援をていねいにし続けていくことにつきると思う　予防的な施策が大はやりだが、これだけ情報が氾濫し豊かな時代に自己コントロールする力を真剣につけさせようと思ったら、いきづまるのは目にみえている。オギャーと生まれた時から母と子の人間関係を出発とし対等な安心できる人間関係をどれだけ結べたかが自己コントロールする力に結びつくとするなら、つけやき場の予防教育は疑問。だから私たち保健師は本当に困っている人の自立支援をめざすしかないと私は思っています（私たちが予防教育をしてのってくる人は何もなくてもその気のある人）
命に関わるような危機介入への関与
命に関わるような危機介入事例　生活習慣病予防、寝たきり予防、健康づくり事業への関与、精神保健予防事業
命に関わるような危機介入事例（特に虐待のように他機関との連携をはかることにより事件が未然に防げるもの）への関与
命に関わるような危機介入事例についての関与
命に関わるような危機介入事例については、最優先して関与したい
命に関わるような危機介入事例の関与
命に関わるような危機介入事例の関与
命に関わるような危機介入事例の関与
命に関わるような危機介入事例はもちろんであるが、公的機関に勤務する保健師としては、処遇困難ケースを他機関と連携しながら関与
命に関わるような危機介入事例は保健師の仕事として最後まで残るのではないでしょうか
命に関わるような危機介入事例への関与
命に関わるような危機介入事例への関与
命に関わるような危機介入事例への関与
命に関わるような危機介入事例への関与
命に関わるような危機介入事例への関与
命に関わるような危機介入事例への関与
命に関わるような危機介入事例への関与
命に関わるような危機介入事例への関与
命に関わるような危機介入事例への関与
命に関わるような危機介入事例への関与
命に関わるような危機介入事例への関与
命に関わるような危機介入事例への関与
命に関わるような危機介入事例への関与
命に関わるような危機介入事例への関与
命に関わるような危機介入事例への関与
命に関わるような危機介入事例への関与
命に関わるような危機介入事例への関与
命に関わるような危機介入事例への関与　介護保険非認定事例への関与
命に関わるような危機介入事例への関与　虐待が疑われるケース・虐待リスクの高い事例への関与
命に関わるような危機介入事例への関与　緊急事例
命に関わるような危機介入事例への関与　子どもの発達の遅れのみられる母親への早期支援　発達遅れのある子どもの早期支援
命に関わるような危機介入事例への関与　精神保健に関する事例
命に関わるような危機介入事例への関与　他機関から依頼のあった事例への関与
命に関わるような危機介入事例への関与　他機関から依頼のあった事例への関与
命に関わるような危機介入事例への関与　他機関とのネットワークシステムの構築
命に関わるような危機介入事例への関与　不恐の中で、事例が増えてくることが予測される為　さけてはおれなくなる。
命に関わるような危機介入事例への関与（ex虐待等）
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。

命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。（精神、虐待etc）
命に関わるような危機介入事例への関与。→予防的かかわり（虐待等）
命に関わるような危機介入事例への関与。システムを構ちくすること
命に関わるような危機介入事例への関与。ニーズのないところのニーズの掘りおこし。他機関との連携。
命に関わるような危機介入事例への関与。についてのスキルアップ　視点を身につけられたらいいと思います。
命に関わるような危機介入事例への関与。虐待など
命に関わるような危機介入事例への関与。及び、そうならないための事前の対策
命に関わるような危機介入事例への関与。子育て支援
命に関わるような危機介入事例への関与。他機関から依頼のあった事例への関与。
命に関わるような危機介入事例への関与。他機関から依頼のあった事例への関与。以外に1．健康づくりを推進するボランティア（食推　運推など）を支援　2．地域で行っている健康づくりの企画を支援
命に関わるような危機介入事例への関与。統計能力の向上（分析、評価の為）
命に関わるような危機介入事例への関与。保健の域に滞まらず、医療・福祉等幅広い知識を持った上での活動（特に福祉事務所等保健師が福祉の分野に異動した際の役割等）
命に関わるような危機介入事例への関与。予防的関わり（精神・母子・成人ともに）
命に関わるような危機介入事例への関与etc
命に関わるような危機介入事例への関与など
命に関わるような危機介入事例への関与のような事例における関係機関との連携
命に関わるような危機介入事例への関与は必要と思われるが、保健師には、権限がない。そのためには、その状況にまでおちいらない前の段階で、くいとめる予防的支援を天命と致したい。
命に関わるような危機介入事例への関与も重要：（看護師の資格を基盤にした保健師資格から考えて）　コーディネート役の他機関から依頼のあった事例への関与も重要
命に関わるような危機介入事例への関与や心の健康づくりとして自殺予防に力を入れたい。
命に関わるような危機介入事例への業務　生活習慣の健康レベルアップのための介入
命に関わるような危機介入事例や警察通報せざるを得ない状況の際、どの様な判断が要求され、どの様に対応するかのマニュアル化
命に関わるような危機介入例への関与として、検診後のフォロー、生活習慣病の2次3次予防の指導（1次はもちろん必要も）
命に関わるような緊急対応が必要な事例への関与。
命に関わるような事例
命に関わるような事例になる前の予防的なかかわり
命に関わるような事例は増えると思われます。本当命、心のさけびに眼を開けるようにし、いろんな分野と連携しながら、地域の活性化は個人の幸せ、健康寿命を延ばすことということをどんどん主張していきたい。
命に関わるような事例への介入、潜在している機能していない家族への関与
命に関わるような事例への関与　精神面での関与
命に関わるような事例への関与（強制的でも受診させたい事例など）
命に関わるような事例への関与はなかなか難しいし、今の保健師レベルではあえてタッチしない方がよい。・他職種が関わるような個別事例については関与は大切。・災害等、緊急レベルの活動（病院や消防が対応）は難しいが、少し落ちついてからのフォローや住民問題への対応が大切だと思う
命に関わるような事例や健康を害することが予測される事例など個人と関わり支援することと同時に、地区特性を見きわめ集団に対してもアプローチしていくこと。
命に関わる危機介入事例への関与
命に関わる危機介入事例への関与　地域の健康問題に対し行政施策への反映

命に関わる事例、困難事例等、増加しつつあり…関わりは必然的に増えてきており重要となってきている。しかし、現場の中で、直接的な業務を行いつつ、町全体を見(診)ながら、企画にもたずさわっていく必要がある。
命に関わる事例で保健指導が必要な場合(痴呆の場合は保健師の介入はとても難しいと思う)
命に関わる事例への関与
命に関わる事例への関与　精神に障害のある人への関与
命に直接、間接的に関わるような事例(虐待など)
命の危機に至る前に把握予防活動
命を守ること　支援体制の構築
面接技術や家庭内に入り込む技術、問題視する目など、表面的な会話のみでは問題が見えてこない。
面接技能のスキルアップ
模索中
模索中。正直、よくわからない。
目でみえる結果や評価をきちんと出すこと
問7に記した。
問に対して、回答できない部分があったので、あえて記入していない部分があります
問題がおこった時にタイムリーにかかわれるといいのだが、根本的には問題がおこらないようふだんから連絡調整をとっておくことが大切　アンテナを地域にはりめぐらすことと、そのアンテナの感度が大切
問題がおこる前に予防できることが理想。実際は困難。発見時～でも、他機関との協力得ながら業務をしていく必要あります。保健師単独では困難な時代になりました。
問題がおこる前の予防活動
問題が起きる前の、ハイリスクグループへの関わりを持ち大きな問題が起こらないように援助すること。生活習慣病などは、ハイリスクグループより、更に前のリスクの少ないグループへの関わりが必要とは思うが…。
問題が起こらないようにするための予防活動、知識の啓発、普及や、問題の予備軍と思われる事例への対応など
問題が起こる前からの関わり。
問題が起こる前の予防的な関わり。問題の早期発見と、早期対応。住民との関わりを大切にし、住民の意見をきけ、一緒に考えていける姿勢が大切だと思う。
問題が顕在化していないケースへの関与。
問題が困難な状況になる前に地区や地域の状況を把握し予防のための保健事業や個別の対応を行っていくこと
問題が重複、地域で排他的状況、命に関わるような危機介入事例への関与
問題が大きくならないうちに発見し、限られた人的・物的資源を最大限に活用してすみやかに対応する能力
問題が発生しないよう予防活動　福祉は専門職がたくさんいるので、やはり保健師は予防活動だと思う
問題が発生する以前から、予防の視点で業務にとりくむこと
問題が表面化される前に状況を把握していく事　優先順位を考え、フォローする内容、援助していく間隔を明確にする事
問題が表面化しにくいケースへの介入
問題が複雑になる前に、予防的に、適切なサービスを提供すること
問題ケースの把握と事例への関与
問題ケースを取りまく、すべての関係機関との連携、連絡調整と、専門的立場からのケースへの個別対応。
問題などの発生予防。
問題に対応していくのではなく、奨来を予測し、それに対する予防活動こそ保健師の本来機能と思う。21世紀は1人1人がエンパワーメントし、生き生きと自立し共生していける社会にしていく必然性があると思う。そのための教育に力を入れるべきと考える。教育委員会、青少年課、児相、保育園、保健所、企業、生涯学習センター等一体的な教育システムを作る事
問題のアセスメント能力、他機関との連携をとるための能力
問題のあるケースは、保健師だけのかかわりでは解決できないこともあり他機関と連携して関与していくことが必要
問題のあるなしに関わらず、すべての住民を見る眼が大切だと思う。一人一人の人生を支える、身近な相談者として、利用される存在
問題の事例を通して、そのような問題がおこらないような、対策、事業化
問題の発見と、専門職・専門機関との連携
問題の予防←虐待、うつの予防のため、早いうちから顔合せの機会をもつ相談にのる、健康教育を行う等　・対象者の相談相手になること→必要な支援へつなげていくこと　・関係機関と連携して命に関わるような危機的状態を回避すること
問題やトラブルが発生する前の予防活動　見とおしをもって対応をしていく
問題やトラブルを防ぐための住民への対応。
問題やトラブルを未然に防げるよう事例への関与をすること
問題をかかえた事例について、相談と問題の整理をしその本人が自分で解決できるようにその道すじをつくること
問題を持った個別に対する支援(虐待をも含めて)
問題を抱えた潜在的な事例への関与。
問題を抱えていながら社会的に孤立している事例　家族の解決能力が低い事例など
問題を抱えながらも、どこの機関にも結びついてない支援ケースへの対応
問題を予測し未然に問題を最小限にとどめるため、他職種をコーディネートしトータルケアを導き出すこと
問題化する前の予防・早期発見・早期関与
問題解決のための企画、行動力を活かし、予防活動事業
問題解決へむけての能力と、れんけい体制
問題事例にとり組んでいると保健師の分野・人員だけでは限界を感じる地区組織・住民・他機関とのネットワークが重要と思われる
問題事例の早期発見をし、相手の受容レベルを考えながら対応していく。他職種との連携により、多方面から介入していくこと。
問題処理能力
問題潜在事例への予防活動への関与
問題発生を未然に防げるような予防事業の充実。
問題発生以前の境界事例への関わり

問題発生時、スムーズに連携できる体制づくり(他職種、機関との連携)
役割の明確化と連携やコーディネート　地域づくりなど、住民のセルフケア能力の向上
役所内での専門職としての権限が認められること。国内での配置基準を設定してほしい。
役所内の他部署との連携や他機関との連携
優先順位からいうと命、生活に関わるような事例への介入
優先順位をつけ、ハイリスク者から関与する
優先順位を考え、生命に関わるような事例や必要性を感じた事例
予算の適正な分配がされるよう、各自治体の中枢において、保健分野以外の分野も把握し動かす力(これは、一部の人で良いが)
予算も含めた、健康づくりの企画調整力の向上と他機関、住民との共同による施策立案
予算を伴う企画立案と積極的な提案
予算関係事務
予測をしたかかわり
予防
予防　疾病にしても、虐待にしても、まずは予防
予防(疾患、虐待)
予防(単に疾病についてだけでなく)に主眼をおき他機関との調整役になっていけるとよい
予防、健康づくりのための事業を施策化する能力。
予防、幅広い連携
予防・保健活動の充実
予防という業務
予防と教育への支援
予防に関すること　・介護予防、生活習慣病予防　・虐待予防を含めた子育て支援
予防に関する活動
予防に向けての地区づくり
予防に重点を置きたいが、現実的には、処遇困難事例、命に関わるような危機介入も必要か
予防に力を入れ、もっと専門性を高めていくべきと思う。評価、分析の力をもっとつけていかねばならないと感じている。
予防のための業務
予防の観点
予防の考え方と対応に対する企画力。職場によって役割は異なるが、専門的知識を期待される場面も多いので、情報収集力と活用する能力が必要。
予防の視点に立った重点的な保健福祉事業
予防の段階から関われる事例への関与
予防の立場でのかかわり　1. 疾病予防　2. ねたきり予防　3. 虐待予防など
予防をになうには、ある程度権限がほしいです。例えば、予防活動を実行できた住民には、次年度の健診無料券がもらえる！保険料が1%安くなる！など予防にはお金がかかることを認識してもらいたい。
予防を視野に入れた事例への関与
予防を主眼においた業務
予防を重点とする保健活動をするべき
予防を重点に置いた事業
予防を念頭においた関わり
予防医学に関する他機関との連携
予防医学の分野での活動
予防可能事例への関与
予防活動
予防活動
予防活動
予防活動
予防活動
予防活動
予防活動
予防活動
予防活動
予防活動
予防活動
予防活動
予防活動
予防活動
予防活動
予防活動
予防活動
予防活動
予防活動
予防活動
予防活動　EX、とじこもり予防　虐待予防
予防活動　教育、相談教室の充実　住民意識向上　自己実現のための支援活動　関係機関間の連携調整
予防活動　健康危機管理
予防活動　健康保持増進　虐待予防　地区活動　地域組織との連携
予防活動　他職種との連携、コーディネイト

予防活動　地域住民や他機関との連携強化
予防活動　発生予防・悪化予防が従来から行われていますが、今も重要なキーワードだと思う
予防活動　母子の子育て支援
予防活動（1次）を重視すべきだと思う。
予防活動（いろいろな意味で）
予防活動（虐待、ねたきり要介護）
予防活動（個人の他集団に対しても）（特に0次～1次予防）
予防活動（個別支援、地区支援を含めた）
予防活動（疾病・虐待等に対し）どんなケースに関しても、適切にすばやく対応できる判断力を持つこと
予防活動（成人、母子共に）。少子高齢化社会。社会基盤が不安定。どの年代層も健やかに過すために予防活動は大切。皆、目に見える問題には目を向けられるが、潜在化しているものに対しては専門職の住民への声かけは大切。
予防活動（生活習慣病）
予防活動（段階は様々ですが）
予防活動（乳幼児～老人）
予防活動。
予防活動。（保健も介護も）予防活動をする人々の組織化。
予防活動。啓蒙活動。（先を見て、考えていくことが必要だと思います）
予防活動・育児支援
予防活動…住民主体の地域に於ける健康づくり活動
予防活動が必要と理事者に説明できるだけの企画力や、施策を組み立てられる力
予防活動と、地域住民の声（ニーズ）をすい上げること。
予防活動とともに危機介入事例への関与も重要になってくると思われます
予防活動と共に1．命に関わるような危機介入事例への関与。2．他機関から依頼のあった事例への関与。も重要と考える
予防活動と地域の把握
予防活動と同時に、行政職としての活動（企画、調整等）
予防活動においての企画、実施、評価能力　個別ケースへの対応…目標実現のための働きかけ、そのために必要な関係機関との調整能力
予防活動により積極的に関与し、連携しながら、個々に応じた、きめ細かい処方がだせ、より実践に結びつく活動の展開
予防活動に重点をおき、また、それをどう評価していくのかを明確にしていくこと
予防活動に徹するべし、と思いますが、様々な職種がでてくる中で、保健師のすべき仕事とは、一体何だろうと考えこんでしまいます。たとえば、保健師も看護師のようなエキスパート（終末期専門とか人工肛門専門とか）が求められているのではないだろうか。
予防活動の強化
予防活動の強化
予防活動の強化
予防活動の強化
予防活動の強化
予防活動の強化　母子の健全育成
予防活動の強化（虐待予防、ねたきり予防等）
予防活動の視点と考え方。
予防活動の充実
予防活動の中での個別対応
予防活動の展開
予防活動の本質は変わってないと思うが、ニーズや情報が多様化し集団＋個へのアプローチが、より重要になってきていると感じる。一方で住民が先導し積極的に保健事業に参画できるような集団を組織化していくことも必要と思う。専門的になる程、その分野に配置して職能として協力体制を確立した方が専門性を発揮できると思う。
予防活動の力量をつけ施策を具体化し実施評価できる力をつける
予防活動への関与。
予防活動への取り組みは保健分野で保健師がになう大事な仕事である。
予防活動への積極的な関与
予防活動を主とした業務と、問題がある事例への関与。また、それにともなう他機関との連携
予防活動ー虐待予防　介護予防　疾病予防など
予防活動及び要注意者へのフォロー
予防活動全て
予防活動的な業務の強化
予防業務
予防業務
予防業務　母子、成人、高令者全ての年代において必要と思う
予防業務（他機関との連携を図りながらの）
予防業務、フォロー、住民が生活しやすいように支援していく。
予防業務、他機関と連携を円滑にとれる能力
予防事業
予防事業
予防事業
予防事業（ねたきり予防、虐待予防、感染症予防etc…）
予防事業（住民の方々との協働はかかせません）
予防事業がやはりメインと思いますので、町の状況の分析も必要になると思います。
予防事業の為の企画、調整、実施、評価
予防事業を重点的に行なう。（虐待予防等）グレーゾーンやハイリスク者、利益を考えず動ける機関として、民間ではおぎなえない部分（事例）について行政が支援をしていく。

予防事業を政策として位置づけられる能力
予防的な活動
予防的な活動　虐待など危機的な状況に至らないですむような、子育て支援づくり、市民パワーも活用して、一緒につくっていきたい
予防的な活動（健康づくり、介護予防も然り）全般に対し、問題点を明確化し、施策に反映していく能力。
予防的な観点からのアプローチ
予防的な関わり
予防的な関わり
予防的な関わり、健康づくり。
予防的な業務の強化
予防的な業務内容のもの。虐待リスクを少くするための予防的業務など。早期対応をし、未前に防ぐことが大切。
予防的な施策作成、実施　地域ネットワークづくり
予防的な視点からの事例への関与
予防的な視点で介入していく
予防的に介入する
予防的に働きかけること。事前に情報を手に入れ、危機（虐待等）などがおこる前のケアを行なう。
予防的活動
予防的活動
予防的活動業務
予防的観点から業務を考えること
予防的視点（介護予防、虐待予防、疾病予防等）から、事例に関与し、他機関へのコーディネート及び連携を行うことが必要と思われる　また、地域のニーズ、ニードを行政の事業へ反映及び反映できるよう情報を提示できる職種と思われる
予防的視点からの対象者把握とそれへの対応。
予防的視点で、早期から、事例へ関与
予防的視点での政策形成能力
予防的視点で健康問題にとりくむ、地域住民と一緒に健康を考えていく
予防的視点で事例に関与していくこと
予防的視点で事例を見、援助目標を立てられる能力
予防的視点をもって、地域住民や関係機関と連携しながら、その事例にあった対応をしていくこと。
予防的視点を持った施策、制度の立案能力
予防的視点を重視した、事例、事業への関与
予防的視野にたった活動業務　時代に沿った内容の健康教育
予防面
予防面から検診を通しての関与　家族の看護、介護力低下に関すること
幼児虐待・老人虐待など危機介入事例への関与
幼児虐待など命に関わるような危機介入事例への関与
幼児及び高齢者の虐待について
様々なケースについて理解し、協力してチームでケースにとりくんでいく技術
様々なケースへの関与が予測される医療職としての機能が基本になると思われるので、常に学ぶ姿勢が必要だと思います
様々なケースへの関与が予測される医療職としての機能が基本になると思われるので、常に学ぶ姿勢が必要だと思います
様々なケースを通じて、必要な地域ケアシステムを構築できる能力（関係機関のネットワークづくり、健康福祉資源の創出など）
様々なサービスの提供が行政、他機関より行われているが、そのどのサービスもうけていない人で、なんらかの手助けが、必要な人への関与。
様々なトラブルを未然に防ぐような活動
様々なライフサイクルの段階にある人々への精神面への支援（カウンセリング等含む）
様々なライフステージにおける様々な形の健康に対する支援に十分な時間・研究・研修が行われること。
様々な委託先、専門職が出てきており、明確なすみ分け、業務独占がしづらい時代になってきている。とくに地域の場合、NPOと行政、民間、住民パワーなど、なぜこの仕事が行政保健師でなければいけないのか、常に考えさせられている。公衆衛生学をはじめ、地域、産業etcの保健を専門に勉強してきていることを改めて考えると、やはり他機関とのコーディネートが最重要でないかと現在のところ思う。
様々な機関との連携　そのためには、私たちがどんな仕事をしているのかPRしていくことが必要なのかもしれません
様々な機関と協力し、連携をはかっていくことが重要と思う
様々な業務が市町村に移譲し、保健師の役割も多様になる中、更に市町村合併という大きな課題があります。その中で、1. 各業務に携わる保健師間の連携　2. その事例の課題をきちんととらえ、他機関とどう関わっていくかがあると思います
様々な業務が増えるなか、1つ1つの事例にしっかり向きあうことが大切であると思います。
様々な業務が増える中、現在、何が必要なのかを整理していくことが大切だと思います。1. 特には、母子関係　育児不安　虐待事例への関与
様々な事例から、地域での問題点を把握し、解決のための関与
様々な事例にあった対応ができるよう、他機関、他職種の役割と理解し、コーディネイトできる力が重要かと思います
様々な事例の関与で、まず保健師が…という状況ある。あらゆるケースに対して携わり、手がまわらない。→一応、必要性を把握して対応するが、把握するのにも時間かかる　専門性や、対象者をはっきりしても…と思う。
様々な住民がより健康に過せるように予防の観点から関わることができたらよいと思う。（危機的な状況になる前の段階で問題点を見つけて対応したい）　職能とは違うかもしれないが、想像力や感受性を高める努力をしながら、対象にとって今何が一番大切なのかを冷静に判断し、援助できるようになりたい。（←私、個人として）
様々な住民をとりまく環境、社会資源のコーディネート調整役。
様々な情報の中から必要なものを取捨選択し提供する能力。予防。
様々な情報の中から必要なものを取捨選択し提供する能力。予防。
様々な職種がいる現在の社会の中で、保健師のすべきことをずっと考えながら仕事をしています。まだ、結論はでません。

様々な職種が関わることが多い。その結果、責任の所在や窓口が不明確になることがある。各々の役割を明らかに互いに認識した上で、相談者の主体性の尊重、倫理的な根本的なことからはずれないという視点からずれないで関わっていく。ケースワークだけでなく業務分担であっても地域の視点をもちつづけたいと思いつつ業務に携っている
様々な職種との連携をはかりながら、チームで事例へ関与していくこと
様々な世代やケースと係るため、より専門性のある分野での知識が必要となってくるのではないかと思います
様々な制度やサービス提供をした上でも困難な事例の関与　1. 命に関わるような危機介入事例への関与。2. 他機関から依頼のあった事例への関与。
様々な専門職、機関が増えているので、それぞれとよく交流を持ち、理解し合うこと。
様々な予防活動、啓発など
様々な立場や職種の人の考えを理解し、お互いのよい所を発きできるようにコーディネイトできる力。また支援する相手の力をエンパワメントできる援助のできる力。
様々の職種が同じ内容の業務をこなす時代。「行政手腕の発揮」につきますが、住民のそばにいて、健全な暮しを支えたり健康度を高めたりと、個別対応からは、ますます遠のいていくことを、強く懸念します。
要介護にならないための予防事業　子どもが健やかな育つための予防事業（虐待予防など）
要介護状態の予防のための生活指導と地域づくり　多種・多様な職種が混在しており、PHNの独自性は何なのか　ケアに関する分野は他専門職の役割にしていく方がいいのではないかと考えるようになってきました。
要介護状態を予防、寝たきり、閉じこもりになる危険性の高い事例への関与
要介護度をあげないような、ケアプランを、全てのケアマネ、在宅介護支援センターが立てられるような、支援や、ケアプラン評価
利潤が追求される民間としてではなく、公的機関にあっての処遇困難な事例、虐待（乳幼児、高齢者）等生命にかかわる事例への関与。
利潤が追求される民間としてではなく、公的機関にあっての処遇困難な事例、虐待（乳幼児、高齢者）等生命にかかわる事例への関与。
利潤が追求される民間としてではなく、公的機関にあっての処遇困難な事例、虐待（乳幼児、高齢者）等生命にかかわる事例への関与。
利潤が追求される民間としてではなく、公的機関にあっての処遇困難な事例、虐待（乳幼児、高齢者）等生命にかかわる事例への関与。
利潤が追求される民間としてではなく、公的機関にあっての処遇困難な事例、虐待（乳幼児、高齢者）等生命にかかわる事例への関与。
利用者が地域で健全に生活していけるような、連絡調整役。～の分野にこだわらず、対象を広くとらえて、みる視点。
利用者のニーズにあった支援
類似した健康問題（課題）をもつ住民のグループ化、仲間づくりの支援
例えば虐待の事例等、他機関、他職種で見守りが必要な事例への関与
例えば産後うつなど精神面のストレスに援助を必要とする事例への関与も重要になってくると考えます。記入例の1. 命に関わるような危機介入事例への関与。2. 他機関から依頼のあった事例への関与。は、重要と考えます。他は今のところ思いつきません。
冷静に状況を判断し、対処できる能力　他職種間での調整業務
連携が必要な事例への関与（コーディネーター的役割）
連携して事例に関わっていくことは大切と思う。でも、基本（当たり前かもしれないが）は身体（疾病・介護含め）・精神（子育て等も含め）あらゆる面での予防活動かな、と。
連携と調整
連携なくして仕事はなりたたないので、広く住民から情報を得て適切に関係機関との連絡し改善していくこと
連携の核　係の調整
連携の際の調整、管理の役割は今後も増々重要であると考える
連携の中での専門性の発揮
連携や人脈（今、うすくなってきているように思うので…）を生かし、事例・住民をいち人として（家族の内の、社会の中の人として）サポート体制を考え、提供していくことが保健師の活動として重要だと思います。そうできるように自分自身もなりたいものです
連携をしっかりとること（ちいさなことも見のがさない）
連携をとり、住民のニーズに合ったサービスを提供できる様にお互いを紹介し合い、限られた資源を有効に活用していくこと。
連携をとりながらすすめる事例
連携をとるだけでなく、その時々に応じた判断力をもちあわせなければならないと思う
連携機関との役割分担の調整
連携機関の決定と役割分担の明確化（保健師が主となって関わるケースであるのかを含む）
連携時の情報交換と問題共有
連携先が多岐にわたる事例への関与。
連携体制づくり
連携調整や企画能力
連携能力
連絡調整
老人、母子など担当のみの仕事しか理解するのではなく、地区すべてを乳幼児から老人まで網羅するようにするべきである
老人・母子ふくめ緊急性のある虐待事例への関与
老人については、介護保険制度等他機関のかかわりがあるが母子については、関連してかかわる（事業）制度があまりないため保健師の役割が重要であると思われる。（特に乳幼児の虐待）
老人ホーム勤務なので質問事項は業務と直接関連のないことが多く答えづらかった
老人虐待ケースの早期発見、介入、法的整備も必要である。
老保については、いろいろな専門職種が地域で活動されてきており、マンパワーの不足はあるものの以前に比べてよい方へ向かっている。反面、それらの職種の連携は困難となる為コーディネーターの育成が必要となる。コーディネーターをPHNがするのではなく、連携がとれるようにすることが必要と思う。あと、母子保健はPHNの専門性を活かしていく時が今だと思う。
老令者、児童虐待　精神や経済、家族調整の必要な困難事例

自由記載の内容：「 あなたは、自分の仕事のどのようなところを評価して欲しいと思いますか？」・・・・７３９７件

例：①看護や医療の知識を生かした専門職として住民と関わり、そこから得た情報を基に事業の企画・運営をしていること。

②地域を見る観点から、統計処理はもちろん住民の声を大切にしていること。

(ー)面に目を向け、課題とするのでなく (+)面での評価を優先してほしい。
(1)事業の企画にあたり、住民needsを把握しながら、事業評価を行なっている。客観的評価として、統計処理も、指標としている(住民の声が反映されていることを理解してほしい。)
(1)専門職の視点でとらえて現状の問題点を整理し、不必要な事業はスクラップし、新たに必要な事業は、企画していること。
(1)対住民との仕事なので、評価は住民にされるべきものと考えている。住民に対してどう評価されるべきなのか、具体的な方法がわからない。(2)今年10月で市町村合併となり、職員も住民も意識改革が求められる時代になってきているので、ますます、評価について難しくなってきている様に思う。
(1)保健医療知識を生かした専門職として先を見越した事業計画に務めている点 (2)住民個々のプライバシーに配慮し、かつ個々の早期問題解決にできる限りの心血を注いでいること (3)保健事業の効果は短期間で出るものではないが必ず効果が表われるものを選択し着手していること
(以前にやっていたことで、現在は、業務量が増えたため、できていませんが一)対象となる地域全体の健康問題を把握し(調査、統計処理)健康教室を実施、地域全体の健康に対する意識を高めるようにしていること(教室は現在も民生委員を中心に継続中)
(経験が少なく、「評価してほしいこと」は書けないが)住民との関わりを大切にした活動をしていきたいと思う。
(健診など法律に基づく事業は当然行なうこととして)市町村保健師として 公民館を拠点とした住民の声、思いを大切にしていきたいと思っていること。
(現在、福祉部門に所属しているので)専門職として予防的に関わり、又、個別支援から市全体(集団として)のニーズを見極め施策に反映できるよう担当業務を深めていること。
(他の職業の方に)・地道に頑張っているところ。
(日々流されてしまっていてあまり評価のことなど考えていませんでした)住民の声を大切にしそれを業務に活かすこと
(評価うんぬんの前に)仕事量が多くて、こなしていくのが精一杯です。家にもちかえって残業する事も多く、その辺を評価して欲しい。
(評価してほしいことは、見あたりませんが)これまでの保健師活動を生かしながら、新しい知識や技術(問題解決にあたるための技術や対応技術)の習得に努め仕事をしていきたいと思う。
(保健師という職業、公衆衛生に携わるものとして)地域全体に対し、健康という視点から住民の自己実現の手伝いをしていること。そのために、
(保健師としての経験年数、年齢等から、直接住民の方と接する仕事は減り、全体的な調整、管理的な仕事が増えてきている。)1. 健康推進係(正職、嘱託、臨時職員等を含めて)約20人の集団の運営をしているところ。2. 健康づくり計画策定、市町村合併にむけての調整作業など新しい分野での仕事に積極的にとりくんでいるところ。
(例と類似するが)やはり住民の直接、接する機会が多く持てる仕事であるため、住民の声や、状況から読み取ったことも大事に事業に生かしている点。
"自分の仕事"の評価という視点で評価して欲しいとは思っていない PHN全体で(チームで)、このまちに、住民に、役立っているという評価がしたい。
"住民の健康管理のためにやっぱり保健師は必要だ"と評価してほしいが、実際のところ、自分達も日々の事務仕事に追われ、活動できていない
"住民の立場に立つ"ことを大切にしていること。
"数"も大切だが、"質"を評価してほしい
"専門性"と書きたいところだが、現状のマンパワー(欠員etc)で、まず業務をしている事(サービス残業等)。
"保健"や"予防"という視点を持っていること(他職種・機関に対して)
"保健センターの業務は何をしているのか分からない"という住民の声があった。訪問や健康教育、健診などの保健活動をしていることを知ってもらいたい。
「いかに住民の声を聞きだし、市政に反映させていくか」に対する日々の努力。職場内の業務円滑のための環境整備。細かい連絡、報告
「してほしい」と思うことは特にない
「個々人の健康を守ること」ということにとどまらず、地域づくりや人づくりの施策に"人(住民)と関わることの大切さ"を把握し力を発揮できる職種であると自負している。
「行政保健師の専門性」にこだわり事業等について考えていること
「自分の」というよりは「自分たちの」仕事という意味で、保健という立場から、「予防」に軸足をおいた活動をしているところ
「自分の」というよりは全体的な意味で、評価するのに件数(実績)で評価されがち。数字で表すことができないところも、みてほしいのだが。
「住民サービス」を忘れずに、利用者の声を大切にし、よりよい事業を実施しようと努力していること。
「住民の不利益にならないように」をまず心がけ業務している。公平・公正な介護認定決定の為、調査員の指導、関係機関との連携、調整(特に当市の他事業)、又、審査会委員への情報提供等に努めている。
「人として」活動しようと心がけていること
「地域を見る視点」を大切にしていること、住民の声を事業に反映しようとしていること、そこからえた情報を基に事業の企画、運営をしていること
「認定調査員業務では評価できる所がないのでは」と思っているため
「評価してほしい」と自信持って言える様に活動したい。評価してもらいたい様なセールスポイントがない。
「保健」という仕事はすぐに評価する指標がむつかしく、経年的に長期的に見ていかねばならないところが、わかってもらいにくい！しかし、ここにしっかり予算と人がつき働きやすくなれば、川下の仕事に費される予算がずい分減るのに！！！
「保健師」という職種ではあるが、実際は、地域に出かけることもなく、係長業務で毎日、保健師以外の事務をしている。非常に地味な分野で、住民からも見えにくい部分だが、保健事業のかじ取り、縁の下の力持ち的な意味で、保健師全体をサポートしていると思う
「保健師」としての仕事だけでなく、他職種の仕事も一緒にすることで、組織全体の構造を知り、連携しやすい状況をつくっていること。また、対象者である職員の職務も把握できるので、個別相談時も対象に応じた話をするよう努力していること。
「保健師の仕事はこうです」とまだ、はっきり言えないのだが、やはり市町村保健師としての専門性を生かし、住民の生の声を身近に聞き、ニーズに応じた事業を行っていること。
「予防」という大切な仕事が医療費の削減、介護保険財政の健全化また全ての健康問題の予防につながること、又それは効果が出るのに10年はかかること
「予防」を視点に仕事をしているところ すぐには結果のでない活動なので長い目でみてほしい
◎ケースとの関係づくり…相手の話を傾聴し、じっくり関わることができること。
◎介護保険に携わる保健師として、地域の課題への対応と、他機関とのコーディネートを行い、ケアマネジメントをすすめる役割を行っていること
◎介護保険係で勤務している ・他市町と比べ調査体制が不備だが調査の精度について努力していること ・介護保険のパイプ役としてのケアマネジャーとのかかわりについて介護保険が円滑に行くように細部に努力していること
◎経営と経済効果のみが評価指針ではなく、一人一人(利用されている方々)を大切にしていくことで経営と経済効果もあがるのだということ。長期的見方をしてほしい。
◎健診や事業をこなすうえで必要なデータ情報を分析し、次の事業にむけて、改善していく考えや方針をもっていること ◎10年后を目安に、今必要な事業を企画していこうとする企画力 ◎後輩の相談にのり、コーディネイトしたり、対応していく力を育てていること
◎健診学級等のフォローを大事にしていること
◎現在、結核業務を担当しているが患者家族等に、文章で今後のかかわり等をていねいに説明している ◎事業等を企画する時、参加者の生の声を大切にし、運営すること
◎困難事例(虐待・引き込もり・人格障害・自傷他害等)への対応も行っている。限界を感じながらも他に対応してくれる機関が少ない中、相談を受けた者の責任として何とか対応している。(家族・地域・施設からの最初の相談は市町村が多い。)

◎仕事のできる、できないにかかわらず、取り組む姿勢を正しく判断し、評価してほしい。
◎思春期保健の新しいスタイルの事業を宮城県内で初めて行政として、導入しているところだが、その為色々と骨折りがある。必要時支援してほしいし、パイロット事業に取組んでいるので、評価して欲しい。また、この事業を成功させる為、内部の調整は勿論、教育委員会、医師会、自治医大、東北大との関係団体とも連絡しているので、連携の成果を評価してほしい
◎事務職の人と違い、日中（勤務時間中）は住民と接する（事業や訪問）ことが多く、時間外で事務的なことをしなければならないこと。◎事業等での住民の声を生かした業務をしている点
◎時代に即した高令者の健康ニーズを探し、新規事業に反映させていること
◎住民サイドに立った仕事をしていること
◎住民とのかかわり方　◎日々変化している医学的知識やマスコミ等でとりあげられている情報に目を向けて、住民へ正しい知識を提供できるよう努力している点。
◎住民の1人1人を大切にし、きめ細かい対応をしていること　◎新規事業を立ちあげる時の労力、他の人達をまきこんで活動するエネルギー。
◎住民のニードにあわせて、直接的支援をしているところ　◎ニードにあわせた企画調整をしているところ
◎住民の視点から考え、必要な情報を伝えること
◎住民の自助努力をサポートできるように制度を利用し、住民サービスの徹底を図ること　◎居宅介護支援事業所、ケアマネージャーのレベルupを図ることのできるよういろんな機会を捉えて指導している。
◎色んな点から物事を把握し見る力、他との関わり方。
◎新規事業の立ち上げ、それに伴う、他機関との連携、調整を行っていること
◎数ではなく質的な評価をしてほしい　◎市全体として決めた通りではなく区にあった業務を企画、実施できるよう、そういう活動について評価してほしい　◎保健師は地域にでて働くものであることを評価してほしい　◎保健師やセンターへよせる住民の声
◎数値などで、すぐに結果は出にくい仕事だが、住民と、時間をかけ接しているところ。◎住民が、少しずつ行動変容、意識変容しているところ
◎専門職、行政職として住民の立場になりながら、事業運営していること
◎専門職として、知識を活かした仕事をしていることの評価
◎専門職としての保健医療の知識を活用した相談・サポートの技法（個々の対応が中心となりますが…）
◎相談や訪問指導などにおいて、住民ひとりひとりへの対応を大切にしていきたいと考えている。（が、統計的視点で地域をみる事や、事業を展開したり、評価したりといったところでは、力不足であると思う。）
◎対象者の考えや、気持ちを出来るだけ大切に、活かせるように対応していること。
○対人保健サービスを通じて、健康づくりや保健事業を施策化していく一連の流れにあること
◎地域の健康水準を統計処理し、住民組織と共に活動を展開していること　◎自主的
◎地域を見る観点から、住民の声を大切にし、事業の企画・運営をする時に、住民がすごく協力体制をしてくれること。（保健師はどこに行っても、その土地で育ててもらえると思って仕事しているところ）
◎地域住民の健康づくりについて、住民の声を大切にし、住民の意識や心を元気にしていく支援、結果がすぐにはでてこないけれど確実に健康意識が高まっているのは、イベントや住民の声からキャッチできます
◎評価の基準が難しい。事務職の方の評価は、介護予防をすることで、介護保険料が下がったりや要介護認定者がへったり医療費がへったりと、コストに結びつけて、言われます。究極の目的は、そのとおりだと思いますが…。◎事業の企画・運営、自分の考える評価（ex、転倒骨折予防教室では、体力測定や住民の生活や意識、運動習慣変化）
◎保健・医療・福祉・介護などの知識や情報を生かした専門職として住民や関係職種と連携していること。◎地域の特性を知り、地域住民とのつながりを大切にしていること。
◎訪問指導活動等を通して住民の声をききき、その対応をひとつずつきちんとやっている点。
◎例のとおりのことの評価がほしい
◎話をよく聞き、一方的指導ではなく、ケース本人が問題解決してゆけるよう助言しているところ
・1．看護や医療の知識を生かした専門職として住民と関わり、そこから得た情報を基に事業の企画・運営をしていること。2．地域を見る観点から、統計処理はもちろん住民の声を大切にしていること。・ケースを継続して支援するためにアセスメントに記録をつけていること
・1ケースで時間のかかる人もいるので、ただ件数だけで評価して欲しくない　・生活習慣改善のための事業で、数値や参加人数だけでなく対象者の意識の変化など数値化できない所もみてほしい。
・1つ1つていねいにケースワークしているところ　・ビジョンを持って仕事をしようとしているところ　・住民とのコミュニケーションを大切にしていること
・1つ1つのケースに対して時間をかけて関わっていること
・1つ1つの困難事例に対する対応、ケース数は多いが時間が許す限り地区活動（訪問等）を行うよう心がけていること　・地区に出た際、市に対する住民の思いを確認するよう努力していること
・1つ1つの仕事をていねいにこなしていくこと
・1つ1つの対応困難事例を通じて、地域に住む人の問題点を把握し、事業の企画、運営をしようとしていること
・1つ1つの訪問や相談業務をじっくり時間をかけ行い、個別に応じた支援をし他の関係機関と連携し動くようにしているところ。・参加住民のニーズや、健康問題に添うように考慮し、健康教育を行うように心がけているところ。
・1つ1つ精一杯とりくむところ　・中堅として上下との調整役。
・1つのケースについてを大事に対処しているつもりですので、統計では表わせない、メンタル部分（目に見えない部分）に力を入れているので、そういう所も評価してほしいです
・1つのケースを他機関と連携して対応する際、情報の共有や話し合いをもち、自分だけの判断ではなく他からみた意見（切り口）を含めて決定するようにしている（自分の説明不足や足りない点は多いが努力はしている）
・1つの援助から得た情報を他の活動に生かしながら活動していること
・1つの事業を実施する裏でいかにしたら住民にとって良い事業となるか検討を重ねているか
・1つの事例（ケース）でもていねいにかかわること→地域をみる目につながると思います
・1人1人とていねいに関わりたいと考えている点
・1人1人のケースに対応していること（数ではなく質）
・1人1人の市民のニーズに合わせ日々変化していくサービスを関係機関と連携をとりながら実施していること（たとえば虐待事例のアフターケアー・再発防止など）
・1人1人の担当ケースを大事にしているところ。・そこから地域のことを考えたり、連携することで次の連携につなげやすくしているところ。
・1人1人の担当ケースを大事にしているところ。・そこから地域のことを考えたり、連携することで次の連携につなげやすくしているところ。
・1度きりの出会いであるかも知れないが、対応については、何かの時には又利用しようと思えるような態度を示したり、相手の話しにきちんと耳を傾けようと思っている。（住民の声を大切にしようと考えている）
・NICUに対する取り組み：成果が見えにくい事業ではあるが虐待予防へつながる有意義な事業　・他市町の動きや、広報と健診に健診のあり方を検討している所　・遅刻がなく、休暇が少ない　・健診の中から乳児期に子育ての全体の問題点を（生活リズムの乱れ、TVつけっぱなし、外遊び↓）改善してもらう為に、リーフレットを作成している（取り組み中）　・まとめる力をつける為、研修の復命書は重要と思われる内容をまとめている所
・NsやDrのように目に見えて表に出た仕事内容ではないと思うので、住民や他の専門職にも知ってもらってから、その仕事の必要性を評価してほしい。

・あくまでも行政職に位置づけられているということを理解して、その中での専門性を発揮する立場にあることを前提に、行政全体の保健行政の確立、保健師の質の向上を大切にしていること。・現場(地域)をみる視点を原点にしていること。
・アセスメントをして、それが妥当であるか職場内に相談をかけて課題を考えている。・連携をすすめるよう働きかけている。
・あらゆる事業(訪問・健康相談・教育etc)を通して住民と関わり、健康を切り口に住民の生活全体を向上していく新たな事業の企画・運営の一端を担っていること
・ある程度、専門職として評価してもらっていると感じるし、人間性も認めてもらい、とても、ありがたいと思う
・ある程度の専門知識をもちながら住民と丁寧な関わりをもっている、相談しやすい相手であることを心がけている点。・丁寧に記録に残すようにしている点　・自分の力量なりなので、不足、偏りはあると思うが、他機関、職種と連携が少しずつ広がってきている点。
・いつでも住民の立場に立って、少しでも住みやすい地域づくりに貢献していること。
・いつでも住民の立場に立って、少しでも住みやすい地域づくりに貢献していること。
・いつも住民サイドで物事を考え、すすめていること　・何でも、気軽に声をかけてもらえるよう言葉や接客態度には、十分気をつけていること。
・いまさら思わない
・いろいろな研修、会議に出て情報を得たり人脈を増やしていること。・地域の人達を組織化する能力…？
・いろいろな保健事業を通して地域住民と密接に関わっていること　・住民の声を大切にしている
・いろいろの事象について、専門的判断、アドバイスが出来ていること　・各組織、関連機関とのネットワークによる展開
・いろんな職種と連携を密にして、つながりを大切にし、仕事をしている。・住民の立場に立った活動をしている。
・エキスパートとしての専門性を評価してほしい。
・お役所仕事と言われないように必要最低限の事務処理で、タイムリーな住民サービスが受けられるよう配慮していること
・グループの事業から個別相談まで忙しい中で取りくんでいること。・初めてのことが多いが研修には積極的に参加し、業務に役立てている　・他職種の意見をよく聞く　・自分に与えられた仕事は責任を持つ
・ケアマネジメント対象者の関わりと利用者による評価　・民間ケアマネジャーに対する助言・指導に関すること
・ケース(相談者)と関わる中で、相手を否定せず受容的態度で接している(接するよう努めている)こと。・住民・事業の参加者の声をすくいあげるよう努めていること。その声を反映させて自分の知識を生かしながら事業の企画や運営に努めていること。・統計的な情報と住民の声とをからめて地域の現状について考えていること。
・ケース1人1人との関わり　その人の生活を見て、その人に合わせた関わりをしているところ、統計に表わせない部分
・ケースとの関わりの中で、ケースの気持ちや考え捉えて、理解するよう努めて支援していること　・職場において、同僚、係全体のことにも、できるだけ気を配るようにしていること
・ケースとの関わりの中でみえてきた施策の必要性を事業に反映していること　・地域住民と積極的に関わり問題解決に努めていること
・ケースとの関わりを通じて、基礎データーを集収し、事業を考えていること
・ケースとの関係が良い。・処理が速い、残業せず仕事を終える。
・ケースと関わりの中で、相手ケースが少しずつ良い方向、行動が変化してきている姿等の関わりの成果。
・ケースに寄り添いながら、必要なサービスを提供し、育児、生活支援を行っているところ　・健康な人に予防的視点をもって生活する指導を行っているところ
・ケースに対して、根本的な問題解決を目指し、同職種の先輩に相談し、予防的な視点でのアセスメントを実施した上で支援し、専門性を生かした支援を大切にしていること。・住民のニーズとデマンドを常に考慮した上で、専門性を生かした、事業の運営をしていること。
・ケースに対して、状況把握、問題点の明確化、解決のための活動etc1つ1つ大切に対応していること
・ケースに対していろいろな情報や知識を生かしてよりよい方向に進むよう援助している
・ケースに対してとった行動について、良い悪いも含め評価してもらうと、今後につなげられると思う。
・ケースの1人1人を大切にしている点　・連携を大切にしている点
・ケースの処遇をめぐり、多方面との連携の中で仕事をしていること(目には見えにくい事も多い)
・ケースバイケースで個々に応じた健康・生活援助をしているところ
・ケースへの関わり方。ケースにとって何が必要かを判断し、提供するよう心がけている。・業務集計を通して上尾市の健康・保健情報を把握していこうとしていること。
・ケースマネージメント能力　・統計処理能力
・ケースワークに十分取り組んでいる所　・専門分野だけでなく行政職員としての意識をもち、他の分野にも関心をもっている所　・企画、立案、調整を積極的に行っていること
・ケースワークの過程　・地区組織の育成と住民のニーズにあった保健活動
・ケースワークへの対応、必要な機関、社会資源の活用、ケース、家族への支援、説明が適切であったか
・ケースワークを行なうことで、不備なところを改善すること。・客観的な指標を出すことで、課題を新らかにすること。
・コーディネート機能(ケースに対してや地域全体に関する)　・地域保健活動の中で、個別に関わるケースや地域住民から得た情報などを含めた地域診断をもとにして各種事業を展開し又それを通じて得たものを他の活動に生かすなど、地域住民全体が健康のレベルアップをしていく手立てを考え作り出しているところ。
・コーディネート業務や各組織との会議、検討会をしていること又資料作りについやす時間　・新しい企画、運営をしていること
・コツコツと努力を積み重ねている点　・医療従事者の評価というものは、住民がするものだと思うが…。
・コツコツ仕事をこなしているところ
・これまでの行政サービスのあり方にとらわれず、積極的に時代や住民のニーズに合わせた新規事業を展開しているところ
・サービスを受ける側の満足度を大切にし、サービスの質や量など内容、方法を十分考慮し業務を行っていく努力をしていること　・住民ひとり々を大切にした関わりに重点を置いて仕事をしていること
・サービスを提供する側としての視点だけでなく、受ける側の視点にも立って事業の企画・立案を行っているところ
・サービス残業をしながら自分の仕事は必ず終わらせている所。
・さまざまな相談や各申請窓口業務の中で、専門職として対応していること。
・すぐに結果がでない仕事であるという点を理解してほしい。特に困難ケースへの対応は、時間、心労はかかるが答えのでないことばかりである。・住民の声(それも生のいつわりのない声)をきいて、業務に生かしている点。
・すぐに結果がでる仕事ではないが、日々の住民との関わりを大切にして地域全体をみているところ
・すぐに結果はみえないが、住民の声を聞きながら必要な仕事(健康づくり)をしていること